

不登校に関する実態調査

平成 18 年度不登校生徒に関する追跡調査報告書

不登校生徒に関する追跡調査研究会

平成 26 年 7 月

目 次

第 I 部 調査の概要

第 1 章 調査の目的と方法

1 調査の目的	1
---------	---

第 II 部 基礎集計編

第 2 章 中学校卒業までの状況

1 欠席状況	4
2 不登校のきっかけ・休みはじめた学年・時期	8
3 不登校継続の理由	12
4 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人	15
5 中学校3年生時の支援のニーズ	17
6 中学校3年生時の休んでいたときの気持ち	18
7 中学校3年生時の学校以外の方法による学習ニーズ	19
8 中学校3年生時の将来の夢・希望	22
9 中学校3年生時の家庭状況・家族状況	22
10 不登校に対する後悔の有無	23

第 3 章 中学校卒業から現在までの状況

1 中学校卒業後の実際の進路と希望した進路の相違	24
2 希望どおりの進路でなかったことに対する不登校への影響	24
3 中学校卒業後の高等学校等への就学状況とその感想	25
4 中学校卒業後の就学状況とその感想	27
5 中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人	29
6 現在も利用している施設・相談している人	31
7 中学校卒業後の支援に対するニーズ	32
8 中学校卒業時の進路	34

第 4 章 現在の状況と今後の課題

1 現在の同居家族	39
2 現在の就業状況	39
3 現在の就学状況	40
4 中学校卒業時と比べて現在の自分が成長したところ	41
5 不登校による不利益・不当な扱い	43
6 不登校による苦労や不安	44
7 不登校によるマイナスの影響	46
8 将来やってみたい仕事の有無	46
9 自分の将来の夢や希望	47
10 今後の支援に対するニーズ	47

第Ⅲ部 分析編

第5章 性別から見た不登校状況

1	小学校の時の学校生活	49
2	学校を休みはじめたきっかけ	49
3	不登校の継続理由	50
4	中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人	51
5	中学校3年生時の支援のニーズ	52
6	中学校3年生時の休んでいたときの気持ち	52
7	中学校3年生時の学校以外の方法による学習ニーズ	54
8	中学校3年生時の将来の夢・希望	54
9	不登校に対する後悔の有無	55
10	中学校卒業後の実際の進路と希望した進路の相違	55
11	中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人	56
12	中学校卒業後の支援に対するニーズ	56
13	現在の就業状況	57
14	中学校卒業時と比べて現在の自分が成長したところ	58
15	支えとなるアドバイスをしてくれた人	58
16	不登校による苦労や不安	59
17	不登校によるマイナスの影響	60
18	今後の支援に対するニーズ	61

第6章 不登校の継続理由・不登校の態様

1	単純集計結果	62
2	不登校の「きっかけ」と「継続理由」との関係	63
3	不登校の類型化	65
4	不登校の5類型と「性別」	68
5	不登校の5類型と欠席状況の推移パターン	68
6	不登校の5類型と休みはじめたきっかけ	69

第7章 欠席状況の推移パターン

1	欠席状況の推移パターン	70
2	学校を休みはじめた時期	71

第8章 中学校3年生時の休んでいたときの気持ちと不登校に対する後悔の有無 と他項目との関連

1	学校回避スコアの作成	74
2	中学校3年生時に不登校で学校を休んでいた時の気持ちとの関連	74
3	「学校へ行きたかったが行けなかった」との関連	75
4	不登校に対する後悔の有無との関連	76
5	不登校のきっかけとの関連	78
6	不登校の継続理由との関連	80
7	「不登校の5類型」との関連	81
8	中学校3年生時に利用した施設・相談した人との関連	83

9	中学校3年生時の支援のニーズとの関連	84
10	「中学校3年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか」との関連	85
11	高等学校への就学状況、就職状況の有無との関連	86
12	不登校による現在へのマイナスの影響の認識との関連	88
第9章 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人と他項目との関連		
1	中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人について	92
2	不登校の継続理由・不登校の態様との関連	94
3	中学校3年生時の支援に対するニーズとの関連	98
4	中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとの関連	99
5	中学校3年生時の学校以外の方法による学習ニーズとの関連	103
6	中学校3年生時の将来の夢・希望との関連	104
7	不登校に対する後悔の有無との関連	105
8	中学校卒業時の就学・就業状況との関連	106
9	中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人との関連	108
10	中学校卒業後の支援に対するニーズとの関連	109
11	不登校によるマイナスの影響との関連	111
12	今後の支援に対するニーズとの関連	112
第10章 中学校3年生時の支援のニーズと他項目との関連		
1	中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとの関連	114
2	中学校3年生時の学校以外の方法による学習ニーズとの関連	117
3	中学校3年生時の将来の夢・希望との関連	119
4	不登校に対する後悔の有無との関連	120
5	中学校卒業後の就学・就業状況との関連	121
6	中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人との関連	123
7	中学校卒業後の支援に対するニーズとの関連	124
8	不登校によるマイナスの影響との関連	125
9	今後の支援に対するニーズとの関連	125
第11章 不登校に対する後悔の有無と他項目との関連		
1	中学校3年生時の学校以外の方法による学習ニーズとの関連	127
2	中学校卒業時と比べて現在の自分が成長したところとの関連	127
3	不登校によるマイナスの影響との関連	129
第12章 中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人と他項目との関連		
1	中学校卒業後の支援に対するニーズとの関連	130
2	支えとなるアドバイスをしてくれた人との関連	131
3	将来やってみたい仕事の有無との関連	133
4	将来の夢や希望との関連	134
5	今後の支援に対するニーズとの関連	135

第13章	中学校卒業後の支援に対するニーズと他項目との関連	
1	支えとなるアドバイスをしてくれた人との関連	137
2	将来やってみたい仕事の有無との関連	138
3	自分の将来の夢や希望との関連	139
4	今後の支援に対するニーズとの関連	140
第14章	高等学校等進学者の卒業等の状況と他項目との関連	
1	中学校卒業後の支援に対するニーズとの関連	141
2	中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人との関連	141
第15章	現在の就業・就学状況	
1	現在の就業・就学状況	144
2	現在の就業・就学状況と成長したところ	146
第16章	不登校によるマイナスの影響と他項目との関連	
1	中学校卒業時と比べて現在の自分が成長したところとの関連	149
2	将来やってみたい仕事の有無との関連	150
3	自分の将来の夢や希望との関連	151
第17章	将来の生活の見通しについて	
1	将来つきたい仕事の有無	152
2	自分の将来の夢や希望	154
第IV部	ケース分析	
第18章	聞き取り調査についての分析	
1	否定的な語りについての分類と分析	158
2	中立的な語りについての分類と考察	162
3	肯定的な語りについての分類と考察	164
4	いじめに関する語り	169
5	家の間取りに関する語り	170
第V部	資料編	
	調査票（A調査、B調査）	173
	付録（資料1～3）	187
	研究組織	207

第 I 部 調査の概要

第 1 章 調査の目的と方法

1 調査の目的

不登校問題に関しては、これまでも様々な取組を実施してきたが、いまだに小中高等学校合わせて 17 万人余の不登校児童生徒がおり、憂慮すべき状況にある。平成 13 年 8 月に取りまとめられた「不登校に関する実態調査（平成 5 年度不登校生徒追跡調査報告書）」を踏まえた「不登校問題に関する調査研究協力者会議」において、今後の不登校への対応の在り方についての報告を取りまとめられたところであるが、当時と比べて社会情勢も変動しており、昨今の不登校理由も多様化・複雑化していることから、改めて「不登校に関する実態調査」を実施し、不登校当時の状況、心境、必要とした支援や現在の状況、心境、必要とした支援などの追跡調査を行い、もって、不登校の未然防止や不登校児童生徒への必要な支援の在り方等を検討する上での基礎資料とするために実施するものである。

(1) 調査方法・調査事項

この調査では、次の三つの方法によって行う。

① A 調査（調査対象者の欠席状況調査等）

この調査は、都道府県・指定都市教育委員会の協力を得て公立学校に調査を依頼

ア) 平成 18 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における不登校児童生徒のうち、中学 3 学年に在籍した者を調査対象者として、当該生徒の在学中の欠席状況等を調査

イ) ア) に併せて、調査対象者に対して B 調査に係る協力依頼の連絡をして、調査の協力に応諾した者のリストを作成

② B 調査（郵送法によるアンケート調査）

この調査は、(1) により調査の協力に応諾した者にアンケート調査を郵送し、その結果を取りまとめ、分析するものである。

ア) (1) により調査の協力に応諾した者に対し、アンケート調査を郵送し、その結果を集計する。（単純集計）

イ) 調査結果について、複数の問をクロス集計し、傾向分析等を実施する。

③ C 調査（電話によるインタビュー調査）

B 調査対象者のうち、C 調査に協力すると回答した者に対してインタビュー調査を実施し、B 調査では聞き取れなかった部分を補足するためインタビューを実施。

ア) B 調査対象者のうち、C 調査の協力に応諾した者に対しインタビュー調査を実施する。

イ) C 調査の調査結果について、傾向分析を行う。

(2) 調査の対象と標本抽出の方法

① 母集団

平成18年度に公立中学校第3学年に在籍していた生徒のうち、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、不登校として年間30日以上欠席していた者調査対象者（男子20,464人、女子20,579人、合計41,043人）

② 調査対象と標本抽出の方法

A調査：調査対象母集団の全員に対する全数調査。

全国の公立中学校に協力を依頼し、①平成18年度に中学3学年で不登校とされた生徒について、当該生徒の欠席状況に関する調査票（基礎調査票）の作成とともに、②調査対象者に対してB調査への協力について打診して、調査の協力に承諾した者のリストの作成をしてもらう。

調査対象者（男子20,464人、女子20,579人、合計41,043人）

A調査回答数（男子13,996人、女子14,255人、合計28,388人）

B調査承諾数（男子1,199人、女子1,351人、合計2,561人）

B調査：上記によりB調査の協力に承諾した者

B調査の協力に承諾した者にアンケート調査を郵送し、アンケート票を回収した。また、その際、電話等によるインタビュー調査（C調査）への協力について照会し、C調査の協力に承諾した者については連絡先を同封してもらう。

B調査発送数（男子1,199人、女子1,351人、合計2,561人）

B調査回答者（男子668人、女子914人、合計1,604人）

C調査承諾数（男子222人、女子313人、合計536人）

C調査：上記によりC調査の協力に承諾した者

C調査の協力に承諾した者にインタビュー調査を実施した。

C調査連絡数（男子222人、女子313人、合計536人）

C調査実施数（男子152人、女子227人、合計379人）

(3) 調査の時期

A調査（基礎調査）：平成23年10月～平成23年12月

B調査（郵送法によるアンケート調査）：平成24年1月～平成24年3月

C調査（電話によるインタビュー調査）：平成24年8月～平成24年12月

(4) 本報告書における凡例

- ① 本書におけるクロス集計では、すべて統計的に有意な差について「差が見られる」等と記載しているが、表中や文中には統計的な検定値等は省略している。
- ② 複数選択肢を認めた質問では、合計の比率は100%を超える。また、各回答選択肢の比

率は、そのときの対象となる母集団の総数で除した値を記載し、図表の欄外にその旨記載している。

- ③ 「分析編」のクロス集計では、「無回答・不明」を欠損値として扱っている。そのため合計欄は欠損値を含めて集計している「基礎集計編」の数値とは異なる。

(5) 本報告書の構成と各調査との関係

本報告書の分析は質問紙法によるB調査及び電話でのインタビューによるC調査の結果を中心にまとめたものであり、大きく四部から構成されている。

第Ⅰ部「調査の概要」では、調査対象者の母集団に対して基礎調査として実施したA調査の結果を基礎としてB調査及びC調査の標本上の位置づけを行うとともに、調査方法等の調査の概要を説明している。

第Ⅱ部「基礎集計編」では、B調査から得られた単純集計結果について概観した。

第Ⅲ部「分析編」では、B調査の結果の中で基本的な分析変数となっている項目を中心としてクロス集計分析等を行った結果及びその分析をまとめたものである。

第Ⅳ部「ケース分析編」では、C調査のインタビュー項目の中で第Ⅱ部に項目以外の項目について分析したものである。

(6) 各調査の回答状況

		男	女	不明	合計
A調査	対象数	20,464	20,579	0	41,043
	構成比	49.9%	50.1%	0.0%	100.0%
	回答数	13,996	14,255	137	28,388
	構成比	49.3%	50.2%	0.5%	100.0%
B調査	対象数	1,199	1,351	11	2,561
	構成比	46.8%	52.8%	0.4%	100.0%
	回答数	668	914	22	1,604
	構成比	41.6%	57.0%	1.4%	100.0%
C調査	対象数	222	313	1	536
	構成比	41.4%	58.4%	0.2%	100.0%
	回答数	152	227	0	379
	構成比	40.1%	59.9%	0.0%	100.0%

なお、今回の調査は、全調査対象者41,043人のうち、アンケート調査（B調査）は1,604人、電話によるインタビュー調査（C調査）は379人というサンプルとしての回答であり、この調査結果は必ずしも不登校全体の傾向を正確に示すものとは言えないが、不登校の主な要因について、この調査におけるサンプルの比較分析は、今後の不登校の未然防止や不登校児童生徒への支援の在り方を検討する上での基礎資料として活用できる実態調査である。

第Ⅱ部 基礎集計編（B調査）

本研究での調査対象者は、平成 18 年度に中学校 3 年生に在籍していた者で、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において「不登校」として計上された者（年間 30 日以上欠席した者）である。

以下では、B調査の単純集計結果をまとめている。

本調査の回答者は、1,604 人である。表中の〈NA〉は無回答・無効回答を示す。「比率 1」はその〈NA〉数を含めた各項目の回答の比率を、「比率 2」は〈NA〉を除いた有効回答数に占める各項目の回答の比率を示している。

また、前回調査の平成 5 年度調査（以下「前回調査」という。）との比較が可能な調査項目については、参考として「H5 調査」欄に前回調査の比率を示している。（前回調査の比率は、原則として今回の「比率 1」に相当するものを記載しており、前回調査と比較する場合は、「比率 1」と比べるものとする。）ただし、多くの質問において、前回調査とは表現や選択肢を変えているので、比較する際には留意が必要である。

なお、本調査の回答者の性別は、次のとおりであり、前回調査に比べ、男女の比率が大きく異なっている。

問 1 あなたの性別をお教えてください

問 1	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
男	668	41.6%	42.2%	51.2%
女	914	57.0%	57.8%	48.8%
有効回答数	1582	98.6%	100.0%	100.0%
〈NA〉	22	1.4%		
総数	1604	100.0%		

第 2 章 中学校卒業までの状況

1 欠席状況

以下は、小学校時、中学校 1 年生時、中学校 2 年生時、中学校 3 年生時の欠席状況を集計したものである。なお、問はあくまでも「欠席期間」について本人の認識を尋ねており、不登校による欠席期間とは一致しないことに留意する必要がある。

この欠席状況は、平成 18 年度に在籍していた当時のことを調査対象者に思い出してもらい回答を求めたものであり、正確な日数についての調査は不可能であるため、「ほとんど」「かなり」というような相対的な程度について、回答者の主観により回答を求めている。

問 2 小学校と中学校 1・2・3 年生の出席の状況についてお聞きします。a.～d. のそれぞれについて、あなたの状況に一番近い番号をひとつ選んで○をつけてください。

a. 小学校の時はどのくらい学校を休みましたか。

問 2-a	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. ほとんど休まなかった	734	45.8%	46.2%	53.7%
2. 少し休んだ	529	33.0%	33.3%	28.6%
(半分くらい休んだ)	*	*	*	8.3%
3. かなり休んだ	261	16.3%	16.4%	6.8%
4. ほとんど休んだ	66	4.1%	4.2%	2.0%
有効回答数	1590	99.1%	100.0%	
<NA>	14	0.9%		
総数	1604	100.0%		

(注) 「H5 調査」においては、小学校低学年時と高学年時に分けて調査しているため、ここでは小学校高学年時の欠席状況の結果を記載している。

(注) 「H5 調査」においては、「半分くらい休んだ」の選択肢を設定していたが、本調査では選択肢を設けていない（以下同じ）。

b. 中学校 1 年生の時はどのくらい学校を休みましたか。

問 2-b	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. ほとんど休まなかった	444	27.7%	27.9%	32.4%
2. 少し休んだ	438	27.3%	27.5%	29.1%
(半分くらい休んだ)	*	*	*	14.9%
3. かなり休んだ	400	24.9%	25.1%	11.2%
4. ほとんど休んだ	311	19.4%	19.5%	11.5%
有効回答数	1593	99.3%	100.0%	
<NA>	11	0.7%		
総数	1604	100.0%		

c. 中学校 2 年生の時はどのくらい学校を休みましたか。

問 2-c	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. ほとんど休まなかった	102	6.4%	6.4%	8.3%
2. 少し休んだ	247	15.4%	15.5%	20.3%
(半分くらい休んだ)	*	*	*	20.7%
3. かなり休んだ	531	33.1%	33.4%	16.7%
4. ほとんど休んだ	711	44.3%	44.7%	32.9%
有効回答数	1591	99.2%	100.0%	
<NA>	13	0.8%		
総数	1604	100.0%		

d. 中学校3年生の時はどのくらい学校を休みましたか。

問 2-d	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. ほとんど休まなかった	30	1.9%	1.9%	7.1%
2. 少し休んだ	116	7.2%	7.3%	12.3%
(半分くらい休んだ)	*	*	*	10.3%
3. かなり休んだ	471	29.4%	29.5%	12.5%
4. ほとんど休んだ	979	61.0%	61.3%	56.4%
有効回答数	1596	99.5%	100.0%	
<NA>	8	0.5%		
総数	1604	100.0%		

(注) 「H5 調査」においては、中学校3年生時を1学期、2学期、3学期と分けて調査している。ここでは中学校3年生3学期の欠席状況の結果を記載している。

調査対象者の中学校3年生時の欠席状況については、9割を超える者(90.4%)が「ほとんど休んだ」「かなり休んだ」と回答している。本調査の対象者は、統計上は年間30日以上欠席した者であるが、現実にはその中に不登校が長期化している者が多数含まれていることが読み取れる。

また、本調査においては、「半分くらい休んだ」の項目を質問していないため、単純な比較はできないが、参考として、前回調査(中学校3年生3学期)においては、「半分くらい休んだ」(10.3%)を含めても約8割(79.2%)の比率であり、中学校3年生時における欠席は、前回調査に比べ、更に長期化の傾向にあると考えられる。

これは、小学校時から中学校2年生時においても同様の結果が見られ、小学校時は前回調査17.1%(高学年)から本調査20.4%、中学校1年生時は37.6%から44.3%、中学校2年生時は70.3%から77.4%と、いずれも増加している。

逆に、「ほとんど休まなかった」と回答している者の比率は、小学校時から中学校3年生時の全ての段階において、減少している。

また、小学校時から中学校3年生時からの「ほとんど休んだ」「かなり休んだ」の推移を比率2で見ると、小学校時20.6%、中学校1年生時44.6%(小学校時に比べ24.0%増)、中学校2年生時78.1%(中学校1年生時に比べ33.5%増)、中学校3年生時90.8%(中学校2年生時に比べ12.7%増)となっており、本調査の回答者においては、中学校1年生から2年生の間に欠席が長期化した者が最も多く、次いで小学校から中学校1年生時となっている。

文部科学省が毎年度実施している「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」においては、小学校6年生から中学校1年生の間に不登校児童生徒が急増するという結果がでていますが、不登校の長期化の観点から考えると、中学校1年生から2年生の間の増加にも注視する必要がある。

次に、調査対象者の小学校生活についての調査結果を見ることとする。この質問項目は今回新たに設けたものである。

問3 小学生の時の学校生活について、a. ~c. のそれぞれのことについて、あなたにあてはまる番号をひとつ選んで○をつけてください。

a. 授業が楽しかった

問 3-a	回答数	比率 1	比率 2
1. よくあてはまる	327	20.4%	20.7%
2. 少しあてはまる	625	39.0%	39.5%
3. あまりあてはまらない	406	25.3%	25.7%
4. まったくあてはまらない	224	14.0%	14.2%
有効回答数	1582	98.6%	100.0%
<NA>	22	1.4%	
総数	1604	100.0%	

b. 友達との関係が楽しかった

問 3-b	回答数	比率 1	比率 2
1. よくあてはまる	674	42.0%	42.4%
2. 少しあてはまる	531	33.1%	33.4%
3. あまりあてはまらない	249	15.5%	15.7%
4. まったくあてはまらない	134	8.4%	8.4%
有効回答数	1588	99.0%	100.0%
<NA>	16	1.0%	
総数	1604	100.0%	

c. 先生との関係が楽しかった

問 3-c	回答数	比率 1	比率 2
1. よくあてはまる	352	21.9%	22.3%
2. 少しあてはまる	535	33.4%	33.8%
3. あまりあてはまらない	461	28.7%	29.2%
4. まったくあてはまらない	233	14.5%	14.7%
有効回答数	1581	98.6%	100.0%
<NA>	23	1.4%	
総数	1604	100.0%	

「授業が楽しかった」の肯定的な回答（「よくあてはまる」及び「少しあてはまる」の合計）は 59.4%、「友達との関係が楽しかった」の肯定的回答は 75.1%、「先生との関係が楽しかった」の肯定的回答は 55.3%である。比率の高い方から並べると、「友達との関係が楽しかった」、「授業が楽しかった」、「先生との関係が楽しかった」の順となっている。

不登校の児童生徒については、友人との関係が大きな要因として挙げられることが多いが、本調査の対象者においては、その 3/4 が小学校時の友人関係については肯定的な回答をしている。その一方で、教員との人間関係についての肯定的な回答は半数を超えるにとどまっている。

2 不登校のきっかけ・休みはじめた学年・時期

問 4-1 あなたが学校を休みはじめた時のきっかけは何ですか。思いあたるものすべてに○をつけてください。

問 4-1	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 友人との関係	1604	1581	23	849	52.9%	53.7%	44.5%
2. 先生との関係	1604	1581	23	420	26.2%	26.6%	20.8%
3. 勉強が分からない	1604	1581	23	500	31.2%	31.6%	27.6%
4. クラブや部活動の友人・先輩との関係	1604	1581	23	366	22.8%	23.1%	16.5%
5. 学校のきまりなどの問題	1604	1581	23	161	10.0%	10.2%	9.8%
6. 入学、転校、進級して学校や学級になじめなかった	1604	1581	23	273	17.0%	17.3%	14.3%
7. 家族の生活環境の急激な変化	1604	1581	23	155	9.7%	9.8%	4.3%
8. 親との関係	1604	1581	23	228	14.2%	14.4%	11.3%
9. 家族の不和	1604	1581	23	160	10.0%	10.1%	7.5%
10. 病気	1604	1581	23	235	14.7%	14.9%	13.2%
11. 生活リズムの乱れ	1604	1581	23	548	34.2%	34.7%	*
12. インターネットやメール、ゲームなどの影響	1604	1581	23	246	15.3%	15.6%	*
13. その他	1604	1581	23	257	16.0%	16.3%	19.3%
14. とくに思いあたることはない	1604	1581	23	88	5.5%	5.6%	10.8%

(注) 「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

(注) 本調査では、以下のように回答選択肢の後に回答具体例を () 書きで例示している。

1. 友人との関係 (いやがらせやいじめ、けんかなど)
2. 先生との関係 (先生がおこる、注意がうるさい、体罰など)
3. 勉強が分からない (授業がおもしろくない、成績がよくない、テストがきらいなど)
4. クラブや部活動の友人・先輩との関係 (先輩からのいじめ、他の部員とうまくいかなかったなど)
5. 学校のきまりなどの問題 (学校の校則がきびしいなど)
6. 入学、転校、進級して学校や学級になじめなかった (転校、進級したときの不適応など)
7. 家族の生活環境の急激な変化 (父親や母親の単身赴任、家族の別居、親の転職や失業など経済的な問題など)
8. 親との関係 (親がおこる、親の言葉や態度への反発、親との会話がほとんどないなど)
9. 家族の不和 (両親の不和、祖父母と父母の不和など)
10. 病気
11. 生活リズムの乱れ (朝起きられないなど)
12. インターネットやメール、ゲームなどの影響 (一度始めると止められない、学校より楽しいなど)
13. その他
14. とくに思いあたることはない

※作表の関係上、問 4 の設問・選択肢を以下のとおり略称する。

問 4-1 あなたが学校を休みはじめた時のきっかけは何ですか。思いあたるものすべてに○をつけてください。設問の略称【(問4) 不登校のきっかけ】

選択肢の略称

1. 友人との関係 → 「1. 友人」
2. 先生との関係 → 「2. 先生」
3. 勉強が分からない → 「3. 勉強」
4. クラブや部活動の友人・友達との関係 → 「4. 部活の友人」
5. 学校のきまりなどの問題 → 「5. きまり」
6. 入学、転校、進級して学校や学級になじめなかった → 「6. 順応」
7. 家庭の生活環境の急激な変化 → 「7. 環境の変化」
8. 親との関係 → 「8. 親」
9. 家族の不和 → 「9. 家族」
10. 病気 → 「10. 病気」
11. 生活リズムの乱れ → 「11. 生活」
12. インターネットやメール、ゲームなどの影響 → 「12. ネット等」
13. その他 → 「13. その他」
14. とくに思いあたることはない → 「14. なし」

上記は、学校を休みはじめた時のきっかけを尋ねた結果である。

学校を休みはじめたきっかけとしては、「友人との関係」が52.9%、「生活リズムの乱れ」34.2%、「勉強が分からない」31.2%、「先生との関係」26.2%、「クラブや部活動の友人・先輩との関係」22.8%の順となっており、今回新たに項目に加えた「生活リズムの乱れ」を除けば、学校生活をめぐる問題やその影響に関する項目が高い。とりわけ「友人との関係」は半数以上、「先生との関係」は1/4以上と、学校での人間関係から派生する問題をきっかけとする場合が目立っている。

家庭環境をめぐる問題に関する項目では、「親との関係」14.2%が最も高く、「家族の不和」10.0%と続いている。学校生活をめぐる問題と比べると相対的に低い比率であり、家庭生活での問題よりも学校生活をめぐる問題がより不登校になるきっかけとなっていることが分かる。

一方で、人間関係の問題という観点から考えれば、「親との関係」も家庭での人間関係によるものであり、学校においても家庭においても、人間関係をめぐる問題が不登校のきっかけとして大きな影響を与えていることが分かる。

前回調査においては、「最初に学校を休みはじめた『直接の』きっかけ」として尋ねていること、今回調査は新たな選択肢を加えていることを考慮する必要はあるが、上記に述べた傾向は、前回調査も本調査も同じ傾向を示している。また、「その他」、「とくに思いあたることはない」以外の項目については、いずれの項目も前回調査より高い値を示している。

また、本調査においては、「生活のリズムの乱れ」、「インターネットやメール、ゲームなどの影響」について新たに調査項目に加えている。その結果、「生活リズムの乱れ」をきっかけとして回答した者が34.2%と高い比率を示しており、「インターネットやメール、ゲームなどの影響」15.3%と合わせ、不登校になる危険性を考える上で、子供たちの生活リズムや生活習慣の乱れに着目する必要があることを示している。

次に、休みはじめた学年及び時期について見ていく。これは、本調査において、新たに設定した調査項目である。

問 4-2 あなたが最初に学校を休みはじめたのは、何年生の何月頃ですか。学年と時期のそれぞれに1つずつ○をつけてください。

a. 学年

問 4-2-a	回答数	比率 1	比率 2
1. 小学校 1 年生	66	4.1%	4.2%
2. 小学校 2 年生	47	2.9%	3.0%
3. 小学校 3 年生	76	4.7%	4.8%
4. 小学校 4 年生	94	5.9%	6.0%
5. 小学校 5 年生	119	7.4%	7.6%
6. 小学校 6 年生	96	6.0%	6.1%
7. 中学校 1 年生	458	28.6%	29.1%
8. 中学校 2 年生	406	25.3%	25.8%
9. 中学校 3 年生	159	9.9%	10.1%
10. わからない	55	3.4%	3.5%
有効回答数	1576	98.3%	100.0%
<NA>	28	1.7%	
総数	1604	100.0%	

b. 時期

問 4-2-b	回答数	比率 1	比率 2
1. 4 月～6 月	345	21.5%	22.0%
2. 7 月～9 月	456	28.4%	29.1%
3. 10 月～12 月	302	18.8%	19.3%
4. 1 月～3 月	156	9.7%	10.0%
5. わからない	308	19.2%	19.7%
有効回答数	1567	97.7%	100.0%
<NA>	37	2.3%	
総数	1604	100.0%	

休みはじめた学年についてみると、中学校 1 年生が 28.6%と最も高く、次いで中学校 2 年生 25.3%と突出している。それに続くのは、中学校 3 年生であるが、9.9%となっており、中学校 1 年生及び 2 年生に比べると、半分以下の比率となっている。実に、調査対象者の 53.9%が中学校 1 年生又は 2 年生時に休みはじめたと回答しており、改めて、中学校 1・2 年生時における対応が重要であることが分かる。

休みはじめた時期については、7 月～9 月が最も多く、4 月～6 月、10 月～12 月の順に高い比率となっている。これ以上の具体的な時期については、調査を行っていないので不明であるが、7 月～9 月は長期休業（夏季休業）があることを考えると、長期休業明けの 9 月に最も多くなるのではないかと考えられる。

■（問 4-2-a 学年）と（問 4-2-b 時期）のクロス集計

回答数 %	1. 4月～ 6月	2. 7月～ 9月	3. 10月 ～12月	4. 1月～ 3月	5. わから ない	行合計
1. 小学校 1 年生	32 2.05%	10 0.64%	8 0.51%	5 0.32%	10 0.64%	65 4.2%
2. 小学校 2 年生	9 0.58%	9 0.58%	8 0.51%	5 0.32%	14 0.90%	45 2.9%
3. 小学校 3 年生	14 0.90%	23 1.47%	7 0.45%	1 0.06%	29 1.86%	74 4.7%
4. 小学校 4 年生	20 1.28%	20 1.28%	10 0.64%	11 0.70%	33 2.11%	94 6.0%
5. 小学校 5 年生	13 0.83%	33 2.11%	19 1.22%	8 0.51%	45 2.88%	118 7.5%
6. 小学校 6 年生	15 0.96%	12 0.77%	19 1.22%	17 1.09%	32 2.05%	95 6.1%
7. 中学校 1 年生	106 6.78%	160 10.24%	102 6.53%	57 3.65%	30 1.92%	455 29.1%
8. 中学校 2 年生	79 5.05%	132 8.45%	102 6.53%	42 2.69%	48 3.07%	403 25.8%
9. 中学校 3 年生	54 3.45%	55 3.52%	27 1.73%	9 0.58%	14 0.90%	159 10.2%
10. わからない	2 0.13%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	53 3.39%	55 3.5%
列合計	344 22.0%	454 29.0%	302 19.3%	155 9.9%	308 19.7%	1563 100.0%

上記は、学校を休みはじめた学年と時期の相関関係をまとめたものである。（本表においては、一方の回答が無回答の場合は計上されないのので、前記の「a. 学年」「b. 時期」の合計数とは一致しない箇所がある。）

中学校においては、いずれの学年も先に述べたとおり、7月～9月の時期に休みはじめた者が最も多い。しかしながら、それに続く時期としては、中学校1年は4～6月と10～12月に大きな差はなく、中学2年においては10月～12月、中学校3年では、4月～6月が多くなっている。

小学校においては、7月～9月の時期が最も多いのは小学校3年と5年であり、必ずしも7月～9月の時期が最も多いとは言えない状況が見られる。

3 不登校継続の理由

問 5	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2
1. いやがらせやいじめをする生徒の存在や、友人との人間関係のため	1604	1576	28	652	40.6%	41.4%
2. 先生との関係（先生がおこる、注意がうるさい、体罰など）のため	1604	1576	28	261	16.3%	16.6%
3. 遊ぶためや非行グループにはいっていたため	1604	1576	28	143	8.9%	9.1%
4. 無気力でなんとなく学校へ行かなかったため	1604	1576	28	699	43.6%	44.4%
5. 学校へ行かないことをあまり悪く思わなかったため	1604	1576	28	403	25.1%	25.6%
6. だれかが迎えに来たり強く催促されたりすると学校へ行くが、長続きしなかったため	1604	1576	28	202	12.6%	12.8%
7. 学校へ行こうという気持ちはあるが、身体の調子が悪いと感じたり、ぼんやりとした不安があったりしたため	1604	1576	28	688	42.9%	43.7%
8. なぜ学校に行かなくてはならないのかが理解できず、自分の好きな方向を選んだため	1604	1576	28	313	19.5%	19.9%
9. 親から登校するようすすめられず、家にも親から注意されなかったため	1604	1576	28	104	6.5%	6.6%
10. 朝起きられないなど生活リズムが乱れていたため	1604	1576	28	537	33.5%	34.1%
11. 勉強についていけなかったため	1604	1576	28	432	26.9%	27.4%
12. 学校から登校するように働きかけがなかったため	1604	1576	28	74	4.6%	4.7%
13. 保護者やまわりの人に学校を休んでもいいと助言されたため	1604	1576	28	134	8.4%	8.5%
14. その他	1604	1576	28	225	14.0%	14.3%
15. わからない	1604	1576	28	48	3.0%	3.0%

※作表の関係上、問5の設問・選択肢を以下のとおり略称する。

問5 不登校が続く理由は、次の1から13のようなものが考えられます。今、ふりかえってみて中学校3年生の時のあなたにあてはまると思うものすべてに○をつけてください。

設問の略称【(問5) 不登校の継続理由】

選択肢の略称

1. いやがらせやいじめをする生徒の存在や、友人との人間関係のため →「1. 友人」
2. 先生との関係（先生がおこる、注意がうるさい、体罰など）のため →「2. 先生」
3. 遊ぶためや非行グループにはいていたため →「3. 非行」
4. 無気力でなんとなく学校へ行かなかったため →「4. 無気力」
5. 学校へ行かないことをあまり悪く思わなかったため →「5. 悪意なし」
6. だれかが迎えに来たり強く催促されたりすると学校へ行くが、長続きしなかったため →「6. 受動的」
7. 学校へ行こうという気持ちはあるが、身体の調子が悪いと感じたり、ぼんやりとした不安があったりしたため →「7. 不安」
8. なぜ学校に行かなくてはならないのかが理解できず、自分の好きな方向を選んだため →「8. 無理解」
9. 親から登校するようすすめられず、家にも親から注意されなかったため →「9. 注意不足」
10. 朝起きられないなど生活リズムが乱れていたため →「10. 生活」
11. 勉強についていけなかったため →「11. 勉強」
12. 学校から登校するように働きかけがなかったため →「12. 支援不足」
13. 保護者やまわりの人に学校を休んでもいいと助言されたため →「13. 助言」
14. その他 →「14. その他」
15. わからない →「15. 不明」

問4は「不登校のきっかけ」について調べた結果であるが、問5ではその後の「不登校が継続した理由」を調査した結果である。

不登校の継続理由として、比率が40%を超えている項目は「無気力でなんとなく学校へ行かなかったため」43.6%、「学校へ行こうという気持ちはあるが、身体の調子が悪いと感じたり、ぼんやりとした不安があったりしたため」42.9%、「いやがらせやいじめをする生徒の存在や、友人との人間関係のため」40.6%である。次いで、「朝起きられないなど生活リズムが乱れていたため」33.5%、「勉強についていけなかったため」26.9%、「学校へ行かないことをあまり悪く思わなかったため」25.1%と続いている。

なお、この不登校継続理由については、前回調査においても調査しているが、以下（参考）のように選択方法、選択項目を変えている。このため、前回調査との比較は行うことができない。

(参考) 不登校の継続理由に関する本調査と前回調査の相違点

本調査 (問 5)	H5 調査 (問 30)
不登校が続く理由は、次の 1 から 13 のようなものが考えられます。今、ふりかえってみて中学校 3 年生の時のあなたにあてはまると思うもの <u>すべてに</u> ○をつけてください。	不登校状態が継続する理由としては次のようなものが考えられます。今、ふりかえってみて中学校 3 年生の時のあなたはどの理由にあてはまりますか。 <u>ひとつだけ</u> 選んでください。
1. いやがらせやいじめをする生徒の存在や、友人との人間関係のため	1. いやがらせをする生徒の存在や、教師との人間関係等の学校生活上の影響から登校しない (できない)
2. 先生との関係 (先生がおこる、注意がうるさい、体罰など) のため	
3. 遊ぶためや非行グループにはいったため	2. 遊ぶためや非行グループにはいたりして登校しない
4. 無気力でなんとなく学校へ行かなかったため	3. 無気力でなんとなく登校しない、登校しないことへの罪悪感が少なく、迎えに来たり強く催促されたりすると登校するが長続きしない
5. 学校へ行かないことをあまり悪く思わなかったため	
6. だれかが迎えに来たり強く催促されたりすると学校へ行くが、長続きしなかったため	
7. 学校へ行こうという気持ちはあるが、身体の調子が悪いと感じたり、ぼんやりとした不安があったりしたため	4. 登校する意志はあるが身体の不調を感じ登校できない、漠然とした不安を持ち登校できない等、不安を中心とした情緒的な混乱によって登校しない (できない)
8. なぜ学校に行かなくてはならないのかが理解できず、自分の好きな方向を選んだため	5. 学校に行く意義を認めず、自分の好きな方向を選んだため登校しない
9. 親から登校するようすすめられず、家にも親から注意されなかったため	(項目なし)
10. 朝起きられないなど生活リズムが乱れていたため	(項目なし)
11. 勉強についていけなかったため	(項目なし)
12. 学校から登校するように働きかけがなかったため	(項目なし)
13. 保護者やまわりの人に学校を休んでもいいと助言されたため	(項目なし)
(項目なし)	6. 上記の理由が複合していていずれが主であるかを決めがたい
14. その他	7. その他
15. わからない	(項目なし)

4 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人

問6では、中学校3年生時の施設の利用状況と学校内の相談した教員等について調査している。
 (前回調査は施設の利用状況のみを調査していたが、本調査では、学校内で相談した人を新たに調査している。)

問6 中学校3年生の時、1～7のような場所を利用したり、8～10のような人に相談したりしたことがありますか。利用したり相談したりしたものをすべてに○を付けてください。

問6	回答数	有効回答数	NA	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. 教育支援センター (適応指導教室)	1604	1564	40	316	19.7%	20.2%	14.4%
2. 教育相談所	1604	1564	40	91	5.7%	5.8%	17.4%
3. 児童相談所、福祉事務所	1604	1564	40	83	5.2%	5.3%	15.4%
4. 保健所・保健センター	1604	1564	40	19	1.2%	1.2%	3.6%
5. 病院・診療所	1604	1564	40	386	24.1%	24.7%	23.9%
6. 民間施設(「フリースクール」と呼ばれる場所など)	1604	1564	40	141	8.8%	9.0%	5.8%
7. 6.以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関	1604	1564	40	126	7.9%	8.1%	6.7%
8. 学校の養護教諭(保健室の先生)	1604	1564	40	378	23.6%	24.2%	*
9. 学校の先生(担任の先生など)	1604	1564	40	473	29.5%	30.2%	*
10. 学校にいる相談員など(スクールカウンセラーなど)	1604	1564	40	546	34.0%	34.9%	*
11. その他	1604	1564	40	111	6.9%	7.1%	4.4%
12. 何も利用しなかった	1604	1564	40	361	22.5%	23.1%	43.1%

(注) 「H5調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

※作表の関係上、問6の設問・選択肢を以下のとおり略称する。

問6 中学校3年生の時、1～7のような場所を利用したり、8～10のような人に相談したりしたことがありますか。利用したり相談したりしたもののすべてに○を付けてください。

設問の略称【(問6)中学校3年生時に利用した施設・相談した人】

選択肢の略称

1. 教育支援センター(適応指導教室) → 「1. 適指」
2. 教育相談所 → 「2. 相談」
3. 児童相談所、福祉事務所 → 「3. 児相」
4. 保健所・保健センター → 「4. 保健」
5. 病院・診療所 → 「5. 病院」
6. 民間施設(「フリースクール」と呼ばれる場所など) → 「6. FS」
7. 6.以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関 → 「7. 民間」
8. 学校の養護教諭(保健室の先生) → 「8. 養教」
9. 学校の先生(担任の先生など) → 「9. 教師」
10. 学校にいる相談員など(スクールカウンセラーなど) → 「10. SC」
11. その他 → 「11. その他」
12. 何も利用しなかった → 「12. なし」

まず、特に注目すべきこととして、「何も利用しなかった」と回答した者が22.5%で、前回調査より約20%減少している。前回調査においては、学校の養護教諭等の相談した人について調査を行っていないので、一概に不登校生徒を支援する体制が整備されてきたと言い切れないところがあるが、前回調査時に比べて、何らかの形で相談・支援を受けることができる体制が整ってきたと考えることもできる。

施設の利用状況としては、「病院・診療所」が24.1%で最も多く、次いで「教育支援センター(適応指導教室)」19.7%、「民間施設(「フリースクール」と呼ばれる場所など)」8.8%となっている。前回調査と比較すると、「病院・診療所」はほとんど変化がなく、「教育支援センター(適応指導教室)」、「民間施設(「フリースクール」と呼ばれる場所など)」は若干増加している。一方で、「教育相談所」、「児童相談所・福祉事務所」は10.0%以上減少し、「保健所・保健センター」も減少傾向にある。文部科学省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によれば、平成5年度において都道府県又は市町村教育委員会が設置する適応指導教室数は372箇所であったが、平成18年度においては1,164箇所と3.13倍となっている。教育支援センター(適応指導教室)の増加が不登校生徒の受入先として広がる一方で、その増加率に比して利用者は増加していないという課題もうかがえる。

また、学校内の相談した教員等については、「学校にいる相談員など(スクールカウンセラーなど)」34.0%、「学校の先生(担任の先生など)」29.5%、「学校の養護教諭(保健室の先生)」23.6%となっている。文部科学省では、平成13年度からスクールカウンセラーの配置を進めているが、調査対象者の約1/3の者が学校内で相談した人としてスクールカウンセラー等を挙げていることは、学校における不登校生徒に対する支援体制が整備されてきた結果によるものと考えられる。

5 中学校3年生時の支援のニーズ

問7 中学校3年生の時、次のような相談や手助けなどがあればいいのと思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問7	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. 進学するための相談や手助け	1604	1558	46	358	22.3%	23.0%	24.5%
2. 仕事につくための相談や手助け	1604	1558	46	181	11.3%	11.6%	
3. 学校の勉強についての相談や手助け	1604	1558	46	393	24.5%	25.2%	25.1%
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け	1604	1558	46	338	21.1%	21.7%	23.4%
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導	1604	1558	46	493	30.7%	31.6%	*
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所	1604	1558	46	392	24.4%	25.2%	28.9%
7. 心の悩みについての相談	1604	1558	46	513	32.0%	32.9%	33.3%
8. 規則正しい生活習慣についての指導	1604	1558	46	143	8.9%	9.2%	6.0%
9. その他	1604	1558	46	82	5.1%	5.3%	6.0%
10. とくにない	1604	1558	46	512	31.9%	32.9%	32.4%

(注) 「H5調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

(注) 「H5調査」において、1.2に対応する項目は「進路に関する相談を受けられるところ」として調査している。

※作表の関係上、問7の設問・選択肢を以下のとおり略称する。

問7 中学校3年生の時、次のような相談や手助けなどがあればいいのと思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

設問の略称【(問7) 中学校3年生時の支援のニーズ】

選択肢の略称

1. 進学するための相談や手助け → 「1. 進学」
2. 仕事につくための相談や手助け → 「2. 仕事」
3. 学校の勉強についての相談や手助け → 「3. 勉強」
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け → 「4. 技能」
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導 → 「5. 表現」
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所 → 「6. 居場所」
7. 心の悩みについての相談 → 「7. 悩み」
8. 規則正しい生活習慣についての指導 → 「8. 生活」
9. その他 → 「9. その他」
10. とくにない → 「10. ない」

「4. 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人」と関連するが、中学校3年生時にどのような支援を求めているかについての調査結果である。なお、前回調査の「進路に関する相談を受けられるところ」は、本調査では「進学するための相談や手助け」と「仕事につくための相談や手助け」と分けて調査するとともに、新たに「自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導」の項目を追加して調査を行っている。

まず、中学校3年生時の支援のニーズが「とくにない」と回答した者は31.9%で、前回調査とほとんど変化していないことをはじめ、大部分の項目で前回調査と大きな差は見られない。

次に、支援のニーズが高い項目から順に、「心の悩みについての相談」が32.0%で最も多く、次いで「自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導」30.7%、「学校の勉強についての相談や手助け」24.5%、「友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所」24.4%、「進学するための相談や手助け」22.3%となっている。中学校3年生時には、心理的な支援や友人関係を改善するための支援を必要とするとともに、高等学校等への進学を控え学習や進学についての支援を求めていることが分かる。

6 中学校3年生時の休んでいたときの気持ち

問8 中学校3年生の時をふりかえってみて、不登校で学校を休んでいた時のあなたの気持ちについて、a.～c.のそれぞれのことについて最も近いものをひとつずつ選んで○をつけてください。

a. 特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった

問8-a	回答数	比率1	比率2
1. そう思う	397	24.8%	25.6%
2. 少しそう思う	412	25.7%	26.6%
3. そう思わない	739	46.1%	47.7%
有効回答数	1548	96.5%	100.0%

<NA>	56	3.5%
総数	1604	100.0%

b. 自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった

問 8-b	回答数	比率 1	比率 2
1. そう思う	374	23.3%	24.1%
2. 少しそう思う	602	37.5%	38.8%
3. そう思わない	575	35.8%	37.1%
有効回答数	1551	96.7%	100.0%
<NA>	53	3.3%	
総数	1604	100.0%	

c. 学校へ行きたかったが、行けなかった

問 8-c	回答数	比率 1	比率 2
1. そう思う	444	27.7%	28.4%
2. 少しそう思う	499	31.1%	31.9%
3. そう思わない	623	38.8%	39.8%
有効回答数	1566	97.6%	100.0%
<NA>	38	2.4%	
総数	1604	100.0%	

問 8 では、中学校 3 年生時に学校を休んでいたときの気持ちを調査している。

まず、「特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった」については、「そう思う」及び「少しそう思う」を合わせると 50.5%となっている。同様に、他の質問について、「そう思う」及び「少しそう思う」を合わせると、「自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった」60.8%、「学校へ行きたかったが、行けなかった」58.8%である。

7 中学校 3 年生時の学校以外の方法による学習ニーズ

問 9 中学校 3 年生の時、学校以外であれば勉強を続けたいと思っていましたか。どちらかに○をつけてください。

問 9	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 思っていた	670	41.8%	42.9%	44.0%
2. 思っていなかった	891	55.5%	57.1%	54.4%
有効回答数	1561	97.3%	100.0%	
<NA>	43	2.7%		
総数	1604	100.0%		

中学校3年生時の学校以外の方法による学習の継続意思については、「思っていた」が41.8%、「思っていなかった」が55.5%であり、前回調査とほぼ同様の結果であった。

問9-1 問9で「1. 思っていた」を選んだ方にお聞きします。勉強を続けやすいのはどのような方法でしょうか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問9-1	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. 先生が家庭に訪問し勉強する	670	652	18	108	16.1%	16.6%	29.2%
2. 教育支援センター（適応指導教室）に通う	670	652	18	223	33.3%	34.2%	24.3%
3. 公民館、図書館、公立の青少年教育施設などに通う	670	652	18	133	19.9%	20.4%	19.2%
4. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）に通う	670	652	18	178	26.6%	27.3%	28.7%
5. 4以外の民間の教育機関（進学塾、補習塾、サポート校など）に通う	670	652	18	184	27.5%	28.2%	11.7%
6. 郵便、FAX、電子メール、インターネット、電話などを用いて助言してもらいながら家庭で勉強する	670	652	18	203	30.3%	31.1%	47.8%
7. その他	670	652	18	64	9.6%	9.8%	10.9%

文部科学省では、平成17年度に、不登校児童生徒がIT等を活用して行った学習活動について、その学習活動が学校復帰に向けての取組であり、不登校児童生徒の自立を助ける上で有効・適切であると判断される場合は、訪問による対面指導が適切に行われているなどの一定の要件を満たすときに指導要録上「出席扱い」とすることができることとしている。（「不登校児童生徒が自宅においてIT等を活用した学習を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて」平成17年7月6日付け文部科学省初等中等教育局長通知）

中学校3年生時の学校以外の方法によって学習を続けたいと「思っていた」と回答した者に、勉強が続けやすいのはどのような方法かを尋ねたところ、「教育支援センター（適応指導教室）に通う」、「郵便、FAX、電子メール、インターネット、電話などを用いて助言してもらいながら家庭で勉強する」と回答した者が3割を超え、次いで、民間教育施設・機関が続いている。

前回調査と比較すると、教育支援センター（適応指導教室）や民間の教育施設・機関などのニーズが増加している。このことから、前回調査以降、不登校生徒を支援する施設・機関として、教育支援センター（適応指導教室）や民間施設・機関の整備がされたことで、それらの施設・機関が不登校の生徒にとって身近な存在となってきたと考えることもできる。（なお、前回調査に比べ、選択肢の表現が若干異なっている。）※（参考）を参照

一方、教員の家庭訪問や郵便、FAX、電子メール、インターネット、電話などを用いた学習方法のニーズは大きく減少している。特に、FAX、電子メール、インターネット、電話などを用いた学習方法のニーズは、前回調査より17.5%減少している。しかしながら、その比率は30.3

%と依然としてニーズは高いと考えられることから、教育支援センター（適応指導教室）等の施設に通うことができない生徒への学習支援として、IT等を活用した出席の取扱いの普及を含め、個に応じて段階的に学校とのつながりをもたせていくなどの具体的な方策をより一層充実させる必要がある。

（参考）中学校3年生時の学校以外の方法による学習ニーズに関する本調査と前回調査の相違点

本調査（問9-1）	H5調査（問10-1）
1. <u>先生が家庭に訪問し勉強する</u>	1. 家庭を訪問して教えてもらう
2. 教育支援センター（適応指導教室）に通う	2. <u>定期的に教育支援センター（適応指導教室）に通って教えてもらう</u>
3. 公民館、図書館、公立の青少年教育施設などに通う	3. <u>定期的に公民館、図書館、公立の青少年教育施設等に通って教えてもらう</u>
4. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）に通う	4. <u>定期的に民間施設（いわゆる「フリースクール」）に通って教えてもらう</u>
5. 4以外の民間の教育機関（進学塾、補習塾、サポート校など）に通う	5. 上記4以外の民間の教育機関（進学塾、補習塾、サポート校など）に通って教えてもらう
6. 郵便、FAX、電子メール、インターネット、電話などを用いて助言してもらいながら <u>家庭で勉強する</u>	6. 郵便、FAX、電子メール、電話などの <u>通信手段を用いた教育によって助言してもらいながら自宅</u> で勉強する
7. その他	7. その他

問9-2 問9で「2. 思っていなかった」を選んだ方にお聞きます。学校以外であっても勉強を続けたいと思わなかったのはなぜですか。いちばん近いものをひとつ選んでください。

問9-2	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. 勉強がきらいだから	891	881	10	259	29.1%	29.4%	21.5%
2. 勉強に意味があるとは思えないから	891	881	10	125	14.0%	14.2%	13.5%
3. 勉強以外にやりたいことがあるから	891	881	10	98	11.0%	11.1%	16.0%
4. 学校以外で勉強を続けるくらいなら学校へ行くから	891	881	10	160	18.0%	18.2%	13.9%
5. 何もやる気がしないから	891	881	10	289	32.4%	32.8%	22.2%
6. その他	891	881	10	85	9.5%	9.6%	8.7%

中学校3年生時の学校以外の方法による学習ニーズについて学習を続けたいと「思っていなかった」と回答した者に、その理由を尋ねたところ、「何もやる気がしないから」、「勉強が嫌いだから」が上位となっており、その傾向は前回調査と同様である。

しかしながら、「何もやる気がしないから」については前回と比較してその比率が約10.0%増加し、一方で「勉強以外にやりたいことがあるから」は5.0%減少しており、無気力傾向の増加に留意する必要がある。

8 中学校3年生時の将来の夢・希望

問10 中学校3年生の時、自分の将来について夢や希望がありましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

問10	回答数	比率1	比率2
1. あった	362	22.6%	23.0%
2. ぼんやりとあった	551	34.4%	35.0%
3. なかった	663	41.3%	42.1%
有効回答数	1576	98.3%	100.0%
<NA>	28	1.7%	
総数	1604	100.0%	

中学校3年生時に自分の将来の夢・希望の有無については、「あった」22.6%、「ぼんやりとあった」34.4%で、両者を合わせると57.0%であった。

9 中学校3年生時の家庭状況・家族状況

問11 中学校3年生の時、誰と暮らしていましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問11	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率1	比率2
1. 母親	1604	1582	22	1502	93.6%	94.9%
2. 父親	1604	1582	22	1238	77.2%	78.3%
3. きょうだい	1604	1582	22	1309	81.6%	82.7%
4. 祖父母	1604	1582	22	536	33.4%	33.9%
5. ひとり	1604	1582	22	4	0.2%	0.3%
6. その他	1604	1582	22	54	3.4%	3.4%

問12 中学校3年生の時、あなたの家庭は生活（経済的）にゆとりがあったと思いますか。ひとつ選んで○をつけてください。

問12	回答数	比率1	比率2
1. ゆとりがあったと思う	262	16.3%	16.6%
2. ややゆとりがあったと思う	175	10.9%	11.1%
3. ふつうだったと思う	705	44.0%	44.6%
4. やや苦しかったと思う	249	15.5%	15.7%
5. 苦しかったと思う	191	11.9%	12.1%
有効回答数	1582	98.6%	100.0%
<NA>	22	1.4%	
総数	1604	100.0%	

10 不登校に対する後悔の有無

問 13 今、考えると、小中学生の頃、不登校で学校に行かなかったことをどう思いますか。
次の 1. ～ 4. の中からいちばん近いものをひとつ選んで○をつけてください。

問 13	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 行けばよかった	606	37.8%	38.9%	36.0%
2. しかたがなかった	494	30.8%	31.7%	31.3%
3. 行かなくてよかった	183	11.4%	11.8%	27.7%
4. 何とも思わない	273	17.0%	17.5%	*
有効回答数	1556	97.0%	100.0%	
<NA>	48	3.0%		
総数	1604	100.0%		

(注) 「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

不登校であったことに対して、「行けばよかった」という後悔の念を持っている者が最も多く 37.8%となっている。次いで、「しかたがなかった」と回答している者が 30.8%である。これに対して、「行かなくてよかった」とする不登校への肯定的な回答は 11.4%、「何とも思わない」は 17.0%であった。

前回調査と比較した場合、不登校への肯定的な回答を行っている者の比率が 27.7%から 11.4%と 16.3%減少している。しかしながら、今回調査では、「何とも思わない」という肯定的な意味とも取れる選択肢が新たに設定されており、本調査の「行かなくてよかった」と合わせた回答比率は 28.4%であり、前回調査の 27.7%と比較して大きな差が生じていない。よって、本調査結果をもって、不登校に対する肯定的な評価が減少したとは考えられない。

なお、B調査（質問票による調査）による回答とC調査（インタビューによる調査）による回答を比較すると、その回答も揺れていることに留意する必要がある。

※参考：B調査×C調査

B調査↓ C調査→	否定的	中立的	肯定的	合計
行けば良かった	63 (60.6)	22 (21.2)	19 (19.3)	104
しかたがない	33 (35.9)	36 (39.1)	23 (25.0)	92
行かなくて良かった	6 (14.6)	11 (26.8)	24 (58.5)	41
なんとも思わない	10 (25.0)	14 (35.0)	16 (40.0)	40
合計	112	83	82	277

第3章 中学校卒業から現在までの状況

1 中学校卒業後の実際の進路と希望した進路の相違

問14 あなたは中学校を卒業した時、希望どおりの進路に進むことができましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

問14	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. 希望どおりだった	703	43.8%	44.7%	37.4%
2. 希望とは少しちがっていた	486	30.3%	30.9%	28.0%
3. 希望とはかなりちがっていた	165	10.3%	10.5%	10.9%
4. 希望とはまったくちがっていた	220	13.7%	14.0%	17.2%
有効回答数	1574	98.1%	100.0%	
<NA>	30	1.9%		
総数	1604	100.0%		

中学校卒業時の進路について、希望どおりだったと回答している者は43.8%であった。一方で、希望とはちがっていたとする者は54.3%であり、半数以上の者が希望の進路に進めなかったと感じている。その中で、「希望とはかなりちがっていた」10.3%と、「希望とはまったくちがっていた」13.7%を合わせると24.0%となり、調査対象者の約1/4にのぼっている。

2 希望どおりの進路でなかったことに対する不登校への影響

問14-1 問14で「希望とはちがっていた(2、3、4)」を選んだ方にお聞きします。希望どおりの進路に進めなかったのは不登校であったことが影響していると思いますか。次の1.～4.の中からひとつ選んで○をつけてください。

問14-1	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. かなり影響している	435	49.9%	50.3%	48.4%
2. 少し影響している	232	26.6%	26.8%	23.9%
3. あまり影響していない	86	9.9%	9.9%	12.5%
4. まったく影響していない	112	12.9%	12.9%	14.1%
有効回答数	865	99.3%	100.0%	
<NA>	6	0.7%		
総数	871	100.0%		

先に示したように、進路先を希望とはちがっていたと回答した者は調査対象者の54.3%であったが、そのうち、中学校時代に不登校であったことが「かなり影響している」と考える者は、49.9%と半数になっている。これに、「少し影響している」と考える26.6%を合わせると76.5%と高い比率となる。

これは、希望どおりの進路に進めなかった場合、不登校であったことが一定程度以上影響を与えたと感じていることを示している。

3 中学校卒業後の高等学校等への就学状況とその感想

問 15-1、15-2 では、中学校卒業後の高等学校等（以下「高校等」という。）への就学状況と高校等に就学した場合の感想を尋ねている。

問 15-1	回答数	比率 1	比率 2
1. 進学した	1399	87.2%	87.7%
2. 進学しなかった	196	12.2%	12.3%
有効回答数	1595	99.4%	100.0%
<NA>	9	0.6%	
総数	1604	100.0%	

中学校卒業後の高校等への就学状況は 87.2%となっているが、これは中学校卒業時点では進学しなかったが後に高校等に就学した者も含まれることに留意する必要がある。（中学校卒業時点での高校等就学状況については問 18 参照のこと。）

問 15-2 進学された方（問 15-1 で「1. 進学した」と答えた方）にお聞きします。中学校を卒業してから現在までをふりかえって、進学した学校についてどのような感想をお持ちですか。

a. ~ e. のそれぞれのことについてひとつずつ選んで○をつけてください。

a. 自分の望み通りの学校に出会った

問 15-2-a	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	849	60.7%	62.0%
2. いいえ	520	37.2%	38.0%
有効回答数	1369	97.9%	100.0%
<NA>	30	2.1%	
総数	1399	100.0%	

b. 自分の力や性格に合った学校にめぐり会えた

問 15-2-b	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	992	70.9%	72.3%
2. いいえ	381	27.2%	27.7%
有効回答数	1373	98.1%	100.0%
<NA>	26	1.9%	
総数	1399	100.0%	

c. 学校で信頼できる人に出会えた

問 15-2-c	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	952	68.0%	69.7%
2. いいえ	414	29.6%	30.3%
有効回答数	1366	97.6%	100.0%
<NA>	33	2.4%	
総数	1399	100.0%	

d. 学校の雰囲気が自分に合っていた

問 15-2-d	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	913	65.3%	66.8%
2. いいえ	453	32.4%	33.2%
有効回答数	1366	97.6%	100.0%
<NA>	33	2.4%	
総数	1399	100.0%	

e. 勉強を通して、自分に対する自信ができた

問 15-2-e	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	635	45.4%	46.5%
2. いいえ	731	52.3%	53.5%
有効回答数	1366	97.6%	100.0%
<NA>	33	2.4%	
総数	1399	100.0%	

この設問は、中学校卒業後に高校等に就学した者に対して、設定した項目で、就学した学校についての感想を尋ねたものである。

各項目に対する肯定的な回答をみると、「自分の望み通りの学校に出会った」60.7%、「自分の力や性格に合った学校にめぐり会えた」70.9%、「学校で信頼できる人に出会えた」68.0%、「学校の雰囲気が自分に合っていた」65.3%、「勉強を通して、自分に対する自信ができた」45.4%であった。

最も肯定的な回答の比率が高かった項目は、「自分の力や性格に合った学校にめぐり会えた」70.9%であった。逆に最も肯定的な回答の比率が低かった項目は「勉強を通して、自分に対する自信ができた」の45.4%であり、五つの項目の中で唯一半数以下となっている。

このことから、中学校（中学校卒業後の支援機関を含む。）における不登校生徒への進路指導等が充実してきたと考えられる反面、不登校による勉強面での自信のなさが高校等への就学後も影響していると考えられる。

4 中学校卒業後の就業状況とその感想

問 15-3 中学校を卒業してから、就職したことがありますか。（どちらかあてはまる番号ひとつに○）

問 15-3	回答数	比率 1	比率 2
1. 就職したことがある	452	28.2%	28.8%
2. 就職したことがない	1116	69.6%	71.2%
有効回答数	1568	97.8%	100.0%
<NA>	36	2.2%	
総数	1604	100.0%	

問 15-3、15-4 では、中学校卒業後の就業状況と就業した場合の感想を尋ねている。

なお、中学校卒業後の就業状況は 28.2%となっているが、これは中学校卒業時点では就業しなかったが後に就業した者も含まれることに留意する必要がある。（中学校卒業時点での就業学状況については問 18 参照のこと。）

問 15-4 就職したことがある方（問 15-3 で「1. 就職したことがある」と答えた方）にお聞きします。中学校を卒業してから現在までをふりかえって、仕事についてどのような感想をお持ちですか。a.～e.のそれぞれのことについてひとつずつ選んで○をつけてください。

a. 自分の望み通りの仕事に出会った

問 15-4-a	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	221	48.9%	50.0%
2. いいえ	221	48.9%	50.0%
有効回答数	442	97.8%	100.0%
<NA>	10	2.2%	
総数	452	100.0%	

b. 自分の力や性格に合った仕事にめぐり会えた

問 15-4-b	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	277	61.3%	62.8%
2. いいえ	164	36.3%	37.2%
有効回答数	441	97.6%	100.0%
<NA>	11	2.4%	
総数	452	100.0%	

c. 仕事の場で信頼できる人に出会えた

問 15-4-c	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	299	66.2%	67.8%
2. いいえ	142	31.4%	32.2%
有効回答数	441	97.6%	100.0%
<NA>	11	2.4%	
総数	452	100.0%	

d. 職場の雰囲気が自分に合っていた

問 15-4-d	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	305	67.5%	68.5%
2. いいえ	140	31.0%	31.5%
有効回答数	445	98.5%	100.0%
<NA>	7	1.5%	
総数	452	100.0%	

e. 仕事を通して、自分に対する自信ができた

問 15-4-e	回答数	比率 1	比率 2
1. はい	291	64.4%	65.7%
2. いいえ	152	33.6%	34.3%
有効回答数	443	98.0%	100.0%
<NA>	9	2.0%	
総数	452	100.0%	

中学校卒業後に高校等に就学した者に対する調査と同様に、中学校卒業後に就業した者に対して設定した項目で、就業についての感想を尋ねたものである。

各項目に対する肯定的な回答は、「自分の望み通りの仕事に出会った」48.9%、「自分の力や性格に合った仕事にめぐり会えた」61.3%、「仕事の場で信頼できる人に出会えた」66.2%、「職場の雰囲気が自分に合っていた」67.5%、「仕事を通して、自分に対する自信ができた」64.4%であった。

最も肯定的な回答の比率が高かった項目は、「職場の雰囲気が自分に合っていた」67.5%であった。逆に最も肯定的な回答の比率が低かった項目は「自分の望み通りの仕事に出会った」48.9%で、五つの項目の中で唯一半数以下となっている。

前述の高校等への就学者の感想と比較すると、「自分の望み通り」就学 60.7%>就業 48.9%、「自分の力や性格に合った」就学 70.9%>就業 61.3%、「信頼できる人に出会えた」就学 68.0%>就業 66.2%、「雰囲気が自分に合っていた」就学 65.3%<就業 67.5%、「自分に対する自信ができた」就学 45.4%<就業 64.4%となっており、特に注目される点は、「自分の望み通り」という点では就業者に比べて就学者の方がより実感している一方で、「自分に対する自信」という点では就業者の方がより実感している点が挙げられる。

5 中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人

問 16 中学校を卒業してから現在までで、1～9のような場所を利用したり、10～12のような人に相談したことがありますか。利用したり相談したりしたものをすべてに○をつけてください。

問 16	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 教育支援センター (適応指導教室)	1604	1559	45	73	4.6%	4.7%	1.7%
2. 教育相談所	1604	1559	45	29	1.8%	1.9%	3.4%
3. 児童相談所、福祉事務所	1604	1559	45	37	2.3%	2.4%	3.2%
4. 職業安定所 (ハローワーク)	1604	1559	45	258	16.1%	16.5%	19.0%
5. 保健所・保健センター	1604	1559	45	28	1.7%	1.8%	2.2%
6. 病院・診療所	1604	1559	45	457	28.5%	29.3%	21.2%
7. 民間施設(「フリースクール」と呼ばれる場所など)	1604	1559	45	64	4.0%	4.1%	2.0%
8. 4以外の職業相談・支援などをする民間の機関(「サポートステーション」と呼ばれる場所など)	1604	1559	45	30	1.9%	1.9%	*
9. 7以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関	1604	1559	45	99	6.2%	6.4%	3.4%
10. 学校の養護教諭(保健室の先生)	1604	1559	45	132	8.2%	8.5%	*
11. 学校の先生(担任の先生など)	1604	1559	45	353	22.0%	22.6%	*
12. 学校にいる相談員(スクールカウンセラーなど)	1604	1559	45	147	9.2%	9.4%	*
13. その他	1604	1559	45	112	7.0%	7.2%	2.7%
14. 何も利用しなかった	1604	1559	45	613	38.2%	39.3%	53.0%

(注) 「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

※作表の関係上、問 16 の設問・選択肢を以下のとおり略称する。

問 16 中学校を卒業してから現在までで、1～9のような場所を利用したり、10～12のような人に相談したことがありますか。利用したり相談したりしたものをすべてに○をつけてください。

設問の略称【（問 16）中学校卒業後から現在の利用した施設・相談した人】

選択肢の略称

1. 教育支援センター（適応指導教室） → 「1. 適指」
2. 教育相談所 → 「2. 相談」
3. 児童相談所、福祉事務所 → 「3. 児相」
4. 職業安定所（ハローワーク） → 「4. 職安」
5. 保健所・保健センター → 「5. 保健」
6. 病院・診療所 → 「6. 病院」
7. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など） → 「7. FS」
8. 4. 以外の職業相談・支援などをする民間の機関（「サポートステーション」と呼ばれる場所など） → 「8. サポステ」
9. 7. 以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関 → 「9. 民間」
10. 学校の養護教諭（保健室の先生） → 「10. 養教」
11. 学校の先生（担任の先生など） → 「11. 教師」
12. 学校にいる相談員（スクールカウンセラーなど） → 「12. SC」
13. その他 → 「13. その他」
14. 何も利用しなかった → 「14. なし」

問 6 の中学校 3 年生時の施設の利用状況と学校内の相談した教員等について項目同様に、特に注目すべきこととして、「何も利用しなかった」と回答した者が 38.2%で、前回調査の 53.0%と比べ、約 15%減少していることが挙げられる。前回調査においては、学校で相談した人を調査していないので、一概に不登校生徒を支援する体制が整備されてきたと言い切れないところがあるが、本項目からも、前回調査時に比べて、何らかの形で不登校生徒が相談・支援を受けることができる体制が整ってきたと考えることができる。しかも、中学校を卒業してから現在までという点から考えると、単に高校等の学校だけでなく、社会全体として不登校への対応の仕組みが整備されてきたとも考えられる。

一方で、問 6 において、中学校 3 年生時に「何も利用しなかった」と回答した者が 22.5%であったのに対し、中学卒業後に「何も利用しなかった」と回答した者は 38.2%と増加している点に留意する必要がある。

施設の利用状況としては、「病院・診療所」が 28.5%で最も多い点も問 6 の中学校 3 年生時の施設の利用状況の結果と同様である。また、「病院・診療所」の利用は、前回調査の 21.2%から増加しており、「職業安定所（ハローワーク）」16.1%が続いている。

なお、全体に占める比率は低いが、前回調査と比べると、「教育支援センター（適応指導教室）」が 1.7%から 4.6%、「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」が 2.0%から 4.0%、「7（民間施設）以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関」が 3.4%から 6.2%と増加している点も注目され、このことから、社会全体として不登校への対応の仕組みが整備されてきたことがうかがわれる。

学校内の相談した教員等については、「学校の先生（担任の先生など）」22.0%、「学校にいる相談員など（スクールカウンセラーなど）」9.2%、「学校の養護教諭（保健室の先生）」8.2%となっている。

6 現在も利用している施設・相談している人

問 16-1 問 16 で 1～12 のいずれかの回答を選んだ方にお聞きします。選んだもののうち、現在でも利用している場所があったり、相談している人がいますか。あればその番号すべてを下の（ ）に記入してください。

問 16-1	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 教育支援センター（適応指導教室）	915	915	0	19	2.1%	2.1%	0.2%
2. 教育相談所	915	915	0	4	0.4%	0.4%	0.7%
3. 児童相談所、福祉事務所	915	915	0	9	1.0%	1.0%	0.8%
4. 職業安定所（ハローワーク）	915	915	0	69	7.5%	7.5%	13.2%
5. 保健所・保健センター	915	915	0	10	1.1%	1.1%	1.5%
6. 病院・診療所	915	915	0	241	26.3%	26.3%	17.9%
7. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）	915	915	0	16	1.7%	1.7%	1.0%
8. 4 以外の職業相談・支援などをする民間の機関（「サポートステーション」と呼ばれる場所など）	915	915	0	10	1.1%	1.1%	*
9. 7 以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関	915	915	0	33	3.6%	3.6%	1.9%
10. 学校の養護教諭（保健室の先生）	915	915	0	22	2.4%	2.4%	*
11. 学校の先生（担任の先生など）	915	915	0	105	11.5%	11.5%	*
12. 学校にいる相談員（スクールカウンセラーなど）	915	915	0	30	3.3%	3.3%	*

（注）「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

施設の利用状況としては、「病院・診療所」が 26.3%と最も多く、次いで、「職業安定所（ハローワーク）」7.5%となっている。この傾向は、前述の問 16 と同様である。

また、学校内の相談した教員等については、「学校の先生（担任の先生など）」11.5%、「学校にいる相談員など（スクールカウンセラーなど）」3.3%、「学校の養護教諭（保健室の先生）」2.4%となっている。

問 16 との比較でみると、問 16 において、「病院・診療所」を選択した回答した者は 457 人に対し、現在でも利用していると回答した者が 241 人であり、52.7%の者が継続して利用していると考えられる。このように、問 16 と問 16-1 をみたものが、次の表（参考）である。

(参考) 施設・機関等の継続利用率

施設・機関	利用者数 (問 16)	利用者数 (現在) (問 16-1)	継続比率
1. 教育支援センター(適応指導教室)	73	19	26.0%
2. 教育相談所	29	4	13.8%
3. 児童相談所、福祉事務所	37	9	24.3%
4. 職業安定所(ハローワーク)	258	69	26.7%
5. 保健所・保健センター	28	10	35.7%
6. 病院・診療所	457	241	52.7%
7. 民間施設(「フリースクール」と呼ばれる場所など)	64	16	25.0%
8. 4以外の職業相談・支援などをする民間の機関(「サポートステーション」と呼ばれる場所など)	30	10	33.3%
9. 7以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関	99	33	33.3%
10. 学校の養護教諭(保健室の先生)	132	22	16.7%
11. 学校の先生(担任の先生など)	353	105	29.7%
12. 学校にいる相談員(スクールカウンセラーなど)	147	30	20.4%

7 中学校卒業後の支援に対するニーズ

問 17 中学を卒業してから現在までの生活の中で、次のような相談や手助けなどがあればいいのと思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 17	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 進学するための相談や手助け	1604	1558	46	317	19.8%	20.3%	19.2%
2. 仕事につくための相談や手助け	1604	1558	46	433	27.0%	27.8%	
3. 学校の勉強についての相談や手助け	1604	1558	46	288	18.0%	18.5%	20.0%
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け	1604	1558	46	518	32.3%	33.2%	28.2%
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりする方法についての指導	1604	1558	46	436	27.2%	28.0%	*
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所	1604	1558	46	392	24.4%	25.2%	26.7%
7. 心の悩みについての相談	1604	1558	46	444	27.7%	28.5%	28.0%

8. 規則正しい生活習慣についての指導	1604	1558	46	143	8.9%	9.2%	5.5%
9. その他	1604	1558	46	42	2.6%	2.7%	2.9%
10. とくにない	1604	1558	46	550	34.3%	35.3%	37.8%

(注) 「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

(注) 「H5 調査」において、1.2に対応する項目は「進路に関する相談を受けられるところ」として調査している。

※作表の関係上、問 17 の設問・選択肢を以下のとおり略称する。

問 17 中学を卒業してから現在までの生活の中で、次のような相談や手助けなどがあればいいのと思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

設問の略称【(問 17) 中学校卒業後の支援のニーズ】

選択肢の略称

1. 進学するための相談や手助け → 「1. 進学」
2. 仕事につくための相談や手助け → 「2. 仕事」
3. 学校の勉強についての相談や手助け → 「3. 勉強」
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け → 「4. 技能」
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりする方法についての指導 → 「5. 表現」
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所 → 「6. 居場所」
7. 心の悩みについての相談 → 「7. 相談」
- 8 規則正しい生活習慣についての指導 → 「8. 生活」
9. その他 → 「9. その他」
10. とくにない → 「10. なし」

中学校卒業後から現在まで生活においてどのような支援を求めていた(求めている)かについての調査結果である。なお、前回調査の「進路に関する相談を受けられるところ」は、本調査では「進学するための相談や手助け」と「仕事につくための相談や手助け」と分けて調査するとともに、新たに「自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導」の項目を追加して調査を行っている。

まず、支援のニーズが高い項目をみていくと、「将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け」が32.3%で最も多く、次いで「心の悩みについての相談」27.7%、「自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりする方法についての指導」27.2%、「仕事につくための相談や手助け」27.0%、「友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所」24.4%、「進学するための相談や手助け」19.8%となっている。

次に、前回調査との比較でみると、「とくにない」と回答した者は34.3%で、前回調査37.8%と大きな差は見られない。その一方で、前回調査では「進路に関する相談を受けられるところ」(19.2%)として調査しているため単純な比較はできないが、「仕事につくための相談や手助け」が27.0%となっていること、「規則正しい生活習慣についての指導」が前回調査5.5%から8.9%と3.4%増加していることが注目される。他の項目においては、前回調査と大きな差は見られない。

8 中学校卒業時の進路

問 18 中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、あなたの進路状況についてあてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

問 18	回答数	比率 1	比率 2
1. 就職せずに高等学校等に進学した	1298	80.9%	81.4%
2. 高等学校等に進学せずに就職した	96	6.0%	6.0%
3. 就職して働きながら、高等学校等に進学もした	67	4.2%	4.2%
4. 高等学校等に進学もせず、就職もしなかった	134	8.4%	8.4%
有効回答数	1595	99.4%	100.0%
<NA>	9	0.6%	
総数	1604	100.0%	

問 18 では、中学校卒業時点での進路状況を、「就職せずに高等学校等に進学した（就学のみ）」「高等学校等に進学せずに就職した（就業のみ）」「就職して働きながら、高等学校等に進学もした（就学＋就業）」「高等学校等に進学もせず、就職もしなかった（就学・就業せず）」という就業と就学との組合せからなる四つのパターンにより尋ねている。

中学校卒業時点での進路状況としては、「就学のみ」が 80.9%と圧倒的に高く、「就学・就業せず」8.4%、「就業のみ」6.0%、「就学＋就業」4.2%と続いている。

「就学のみ」と「就学＋就業」を合わせて何らかの形で「就学」していたという回答者は、85.1%、「就業のみ」と「就学＋就業」を合わせて何らかの形で「就業」していた者の比率は、10.2%となっている。

本調査では、中学卒業時点での進路状況について、前回調査と同じ設問での調査は行っていない。類似する調査として、前回調査においては、中学校を卒業時点（4月時点）での就学状況と就業状況を別個に調査している。その調査結果は、中学校を卒業してすぐに（4月時点）進学したと回答した者の比率は調査対象者全体の 65.3%、中学校を卒業してすぐに（4月時点）何か仕事に就いたと回答した者の比率は調査対象者全体の 28.3%であった。

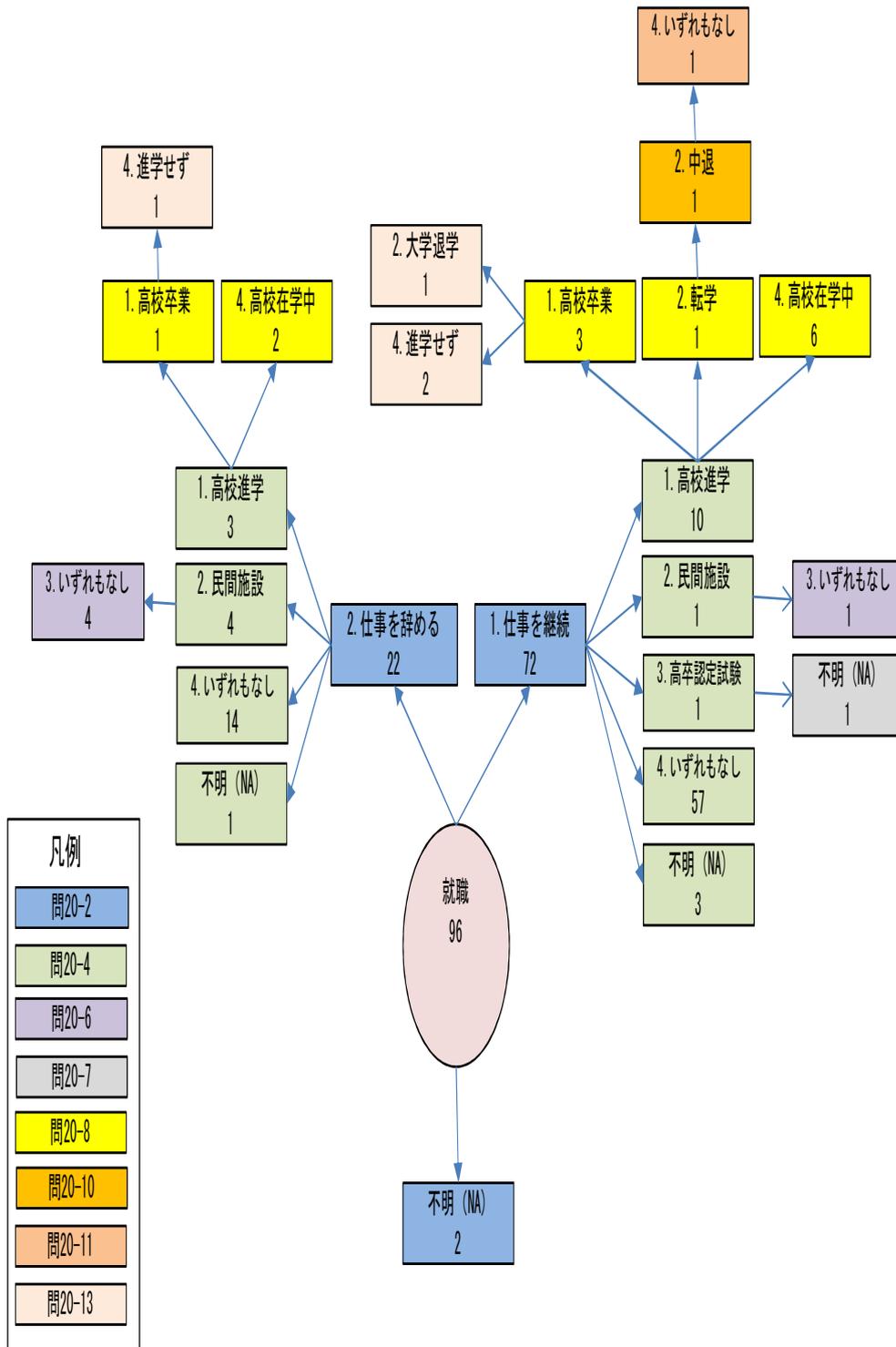
同一の調査ではないために単純な比較はできないが、中学校卒業時点の「就学」は 65.3%から 85.1%と約 20%増加しており、不登校生徒の高校進学率は確実に向上していると考えられる。

この背景には、前回調査以降、中学校における不登校生徒に対する支援体制が整えられてきたこと、進学先の高等学校等においても不登校生徒の受入れ体制が整備されてきたことがあると考えられる。

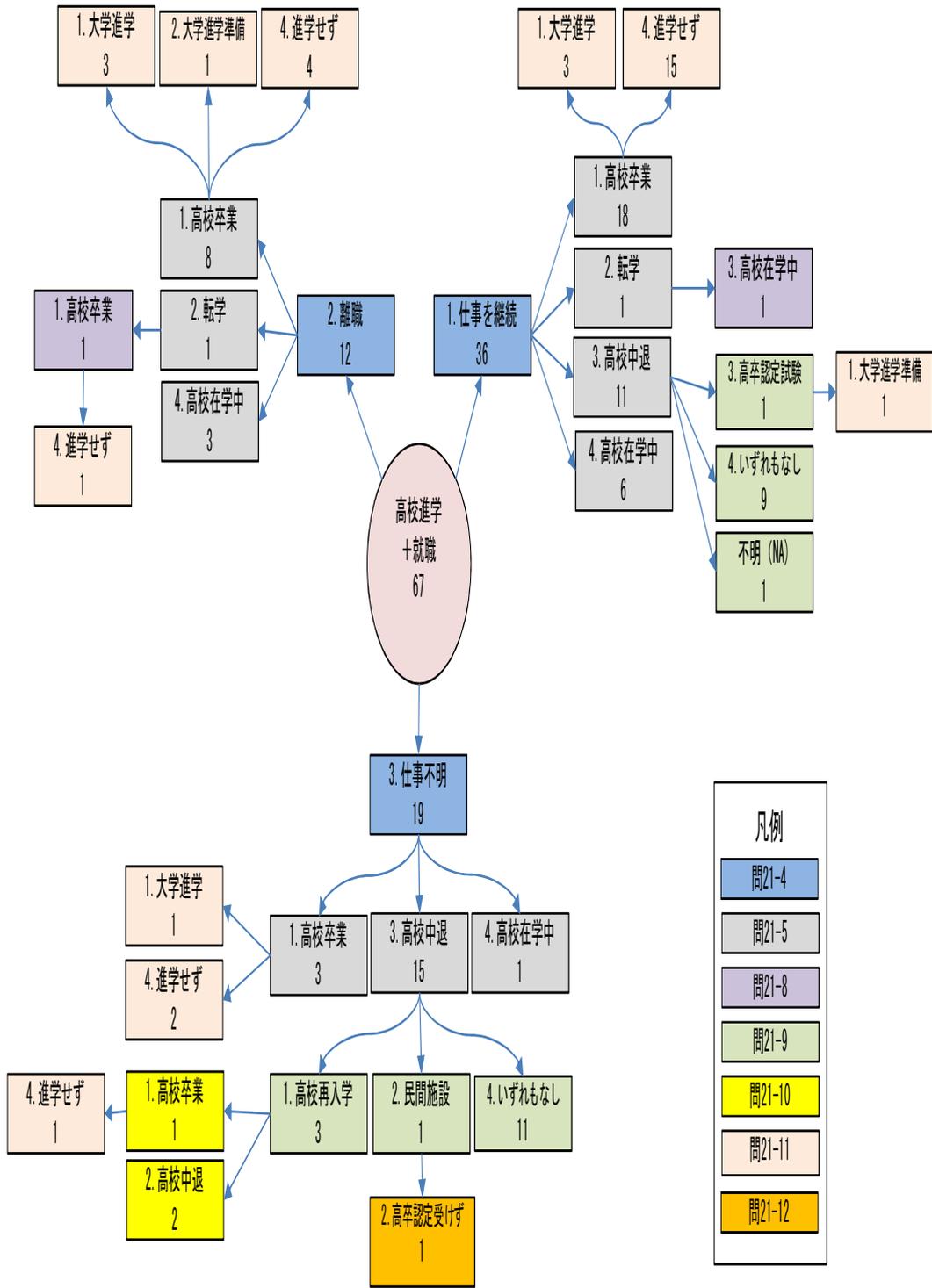
その一方で、平成 19 年度学校基本調査によれば、平成 19 年 3 月の中学校卒業者の高等学校等進学率は 97.7%、専修学校（高等課程）進学率は 0.3%、合計で 98.0%であり、それと比べると、不登校であった生徒の高校等進学率は低いと考えられる。

なお、本調査では、問 18 の各項目について、その後の詳細な状況について調査している。その結果を図示すると、次ページ以降のとおりとなる。

問 20 問 18 で「2. 高等学校等に進学せずに就職した」を選んだ方にお聞きします。中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、就職してからその後の状況について次の質問に教えてください。

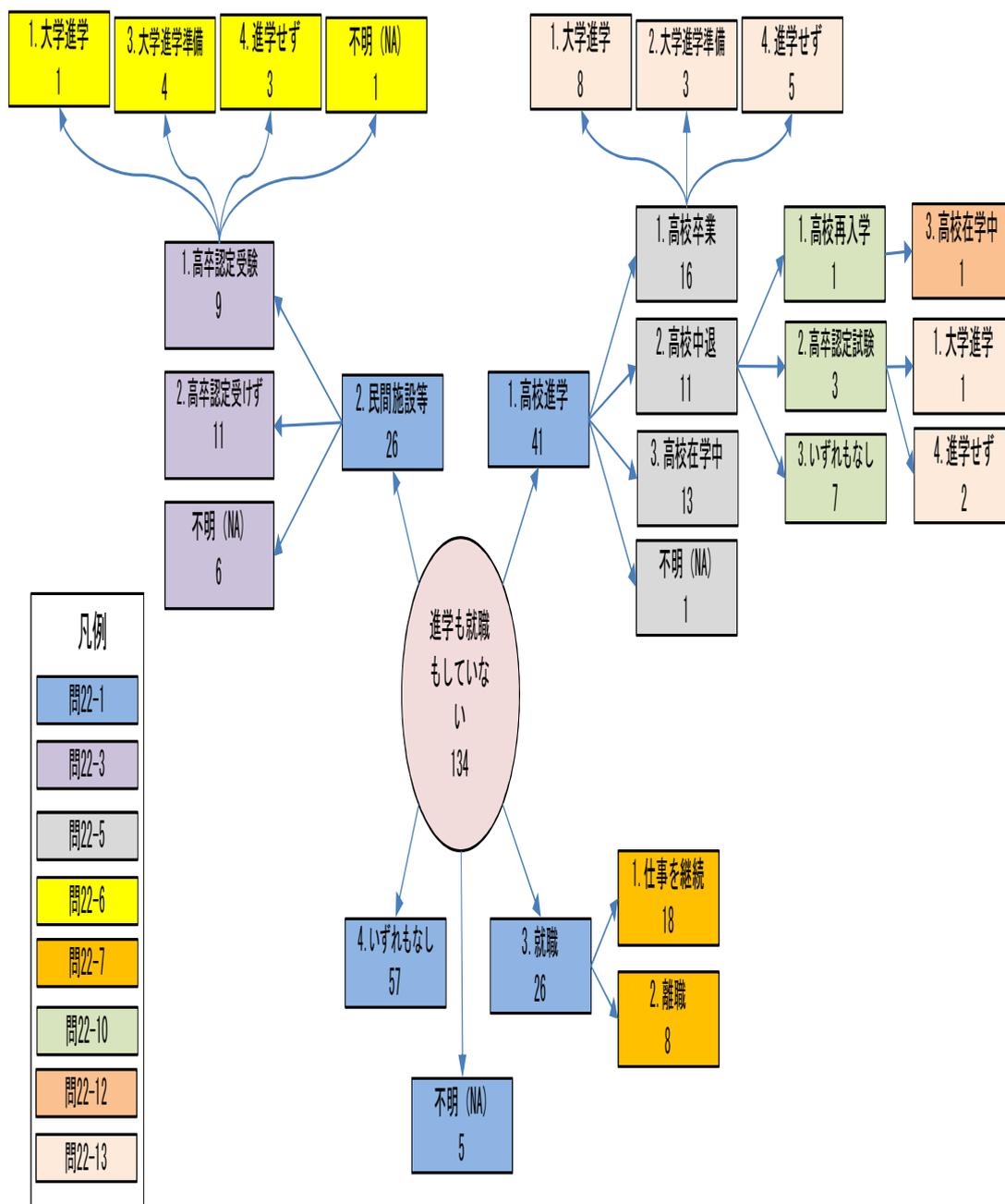


問 21 問 18 で「3. 就職して働きながら、高等学校等に進学もした」を選んだ方にお聞きします。中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、就職して働きながら、高等学校等に進学もした場合、次の質問に答えてください。



凡例	
問21-4	
問21-5	
問21-8	
問21-9	
問21-10	
問21-11	
問21-12	

問 22 問 18 で「4. 高等学校等に進学もせず、就職もしなかった」を選んだ方にお聞きします。中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、高等学校等に進学もせず、就職もしなかった場合、次の質問に教えてください。



(問 19～22 のまとめ)

回答者 1595 人のうち高等学校進学は 1419 人、就職他が 176 人。高等学校進学（1419 人）の内訳は、卒業（高卒認定試験受験者 40 人を含む。）1089 人、在学中 131 人、高等学校中退 199 人であり、高等学校中退率は 14.0%である。

第4章 現在の状況と今後の課題

本研究での調査対象者は、平成18年度に中学校3年生に在籍していた者であり、この調査の実施は卒業後5年間を経て実施されたものである。ここで「現在」というのは、中学卒業してから5年後の調査時点である。

この章の設問では、この現在の状況を、就業と就学の二つの領域に分け、調査対象者がそれぞれにどのように関わっているのかについて尋ねている。しかし、これらの設問は、あくまでも就業・就学の有無とその内容について尋ねたものであり、その回答が「就業も就学もしていない」であったとしても、その状態が「ひきこもり」を意味するものではないことに注意しておく必要がある。

1 現在の同居家族

問23 現在、誰と暮らしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問23	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率1	比率2
1. 母親	1604	1595	9	1241	77.4%	77.8%
2. 父親	1604	1595	9	1004	62.6%	62.9%
3. きょうだい	1604	1595	9	1011	63.0%	63.4%
4. 祖父母	1604	1595	9	416	25.9%	26.1%
5. 妻・夫	1604	1595	9	63	3.9%	3.9%
6. 子ども	1604	1595	9	66	4.1%	4.1%
7. 友人	1604	1595	9	8	0.5%	0.5%
8. ひとり	1604	1595	9	178	11.1%	11.2%
9. その他	1604	1595	9	99	6.2%	6.2%

2 現在の就業状況

問24 現在、何か仕事についていますか。ひとつ選んで○をつけてください。

問24	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. 正社員として会社などに勤めている	149	9.3%	9.6%	22.3%
2. 家業を手伝っている	53	3.3%	3.4%	3.6%
3. パート、アルバイトとして会社などに勤めている	517	32.2%	33.1%	30.4%
4. 自分で会社などを経営している	2	0.1%	0.1%	*
5. その他	136	8.5%	8.7%	5.3%
6. とくに仕事にはついていない	703	43.8%	45.1%	37.6%
有効回答数	1560	97.3%	100.0%	
<NA>	44	2.7%		
総数	1604	100.0%		

(注) 「H5調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

上記は、現在の就業状況を調査した結果である。前回調査から、「自分で会社などを経営している」の項目を新たに設け、調査を行っている。

調査対象者の 53.4%が現在何らかの仕事に就いている一方で、現在就業していない者は 43.8%となっている。

就業状況としては、「パート・アルバイト」として勤めている者の比率が 32.2%で最も多く、次いで「正社員」が 9.3%となっている。

前回調査と比較して、就業している者の比率は、前回調査の 61.6%から 53.4%に減少している。とりわけ、「正社員」は 22.3%から 9.3%と大きく減少している。その反面、「パート・アルバイト」は 1.8%、「とくに仕事についていない」は 6.2%増加している。

なお、「とくに仕事についていない」については、学生や専業主婦などが含まれていることに留意が必要である。

3 現在の就学状況

問 25 現在、どこか学校に通っていますか。ひとつ選んで○をつけてください。

問 25	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 全日制高校	5	0.3%	0.3%	0.1%
2. 定時制高校	50	3.1%	3.2%	2.2%
3. 通信制高校	89	5.5%	5.7%	4.2%
4. 高等専門学校	3	0.2%	0.2%	*
5. 専修学校（専門学校）・各種学校	239	14.9%	15.3%	8.0%
6. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校	1	0.1%	0.1%	*
7. 短期大学	58	3.6%	3.7%	1.9%
8. 大学	304	19.0%	19.5%	6.6%
9. 1～8には通っていない	809	50.4%	51.9%	71.3%
有効回答数	1558	97.1%	100.0%	
<NA>	46	2.9%		
総数	1604	100.0%		

（注）「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

現在の就学状況は、上記のとおりである。なお、前回調査から、「高等専門学校」、「特別支援学校高等部・高等特別支援学校」の項目を新たに設け、調査を行っている。

調査対象者の 46.7%が現在何らかの学校に就学している一方で、現在就学していない者は 50.4%となっている。

就学状況としては、「大学」に就学している者の比率が 19.0%で最も多く、次いで「専修学校（専門学校）・各種学校」が 14.9%となっている。また、「全日制高校」0.3%、「定時制高校」3.1%、「通信制高校」5.5%と、中学卒業時から5年を経過した時点で「高校」に就学している者は 8.9%を占めている。

前回調査との比較において、特筆できることとして、現在何らかの学校に就学していると回答

した者が 23.0%から 46.7%と大幅に増加していることである。とりわけ、「大学」については、6.6%から 19.0%と約 3 倍に増加している。その他の項目についても、前回調査と比較が可能な項目については、全ての項目で就学状況に増加傾向がみられる。

問 18 において、中学卒業時点の就学が増加したことを述べたが、それと同様に、不登校を経験した生徒の大学への進学傾向は確実に強まっている。このことは、高等学校等だけでなく、大学等においても不登校を経験した生徒の受入れ体制が整備されてきたことを示していると考えられる。

また、学校以外にも不登校に関連する支援機関が存在する。その利用状況の集計が下記の表であるが、この年齢段階でこれらの支援機関を利用度は総じて低く、前回調査に比べても減少している。

問 26 現在、問 25 であげた学校以外のところに通っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 26	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 塾（進学塾など）	1604	1393	211	15	0.9%	1.1%	1.1%
2. 高卒認定試験予備校	1604	1393	211	1	0.1%	0.1%	0.4%
3. サポート校	1604	1393	211	3	0.2%	0.2%	0.1%
4. 技能連携校	1604	1393	211	5	0.3%	0.4%	0.5%
5. 民間施設（フリースクールなど）	1604	1393	211	11	0.7%	0.8%	0.5%
6. その他	1604	1393	211	29	1.8%	2.1%	3.3%
7. 通っていない	1604	1393	211	1329	82.9%	95.4%	72.5%

4 中学校卒業時と比べて現在の自分が成長したところ

問 27 中学校を卒業した頃と比べて現在の自分が成長したのはどんなところですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 27	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 身のまわりのことが自分でできること	1604	1589	15	731	45.6%	46.0%	45.1%
2. 身体が健康になったこと	1604	1589	15	407	25.4%	25.6%	30.4%
3. 生活のリズムがつけられること	1604	1589	15	609	38.0%	38.3%	36.3%
4. 自分で働いて収入を得ようとする	1604	1589	15	753	46.9%	47.4%	55.6%

5. 人とうまくつきあえること	1604	1589	15	731	45.6%	46.0%	45.7%
6. 人の痛みがわかるようになったり、人に対して優しくなったこと	1604	1589	15	772	48.1%	48.6%	*
7. 自分に自信が持てること	1604	1589	15	541	33.7%	34.0%	45.0%
8. 家族との関係が改善されたこと	1604	1589	15	399	24.9%	25.1%	30.6%
9. 将来の希望が持てること	1604	1589	15	512	31.9%	32.2%	32.5%
10. かつとしたり、いらいらしたりしなくなったこと	1604	1589	15	298	18.6%	18.8%	25.7%
11. いつまでもくよくよ悩まなくなったこと	1604	1589	15	421	26.2%	26.5%	31.4%
12. 自分の気持ちをはっきり表現できること	1604	1589	15	495	30.9%	31.2%	38.2%
13. 孤独に耐えられること	1604	1589	15	403	25.1%	25.4%	30.8%
14. 学力が身に付いていること	1604	1589	15	434	27.1%	27.3%	*
15. その他	1604	1589	15	103	6.4%	6.5%	10.8%
16. 成長したとは思えない	1604	1589	15	114	7.1%	7.2%	6.8%

(注) 「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

中学校卒業時と比べて成長した点として最も多かった項目は、「人の痛みがわかるようになったり、人に対して優しくなったこと」48.1%である。次いで比率の高い項目を順に並べると、「自分で働いて収入を得ようとする」46.9%、「身のまわりのことが自分でできること」と「人とうまくつきあえること」が共に45.6%、「生活のリズムがつけられること」38.0%となっている。第2章「2 不登校のきっかけ・休みはじめた学年・時期」において、人間関係をめぐる問題が不登校のきっかけとして大きな影響を与えていると述べたが、「人の痛みがわかるようになったり、人に対して優しくなったこと」「人とうまくつきあえること」を成長した点として挙げていることは注目される。また、不登校になる危険性を考える上で、子供たちの生活リズムや生活習慣に着目する必要があることについても述べているが、「身のまわりのことが自分でできること」「生活のリズムがつけられること」を挙げている点も同様に注目される点である。

一方、成長した点として回答の最も少なかった項目は、「かつとしたり、いらいらしたりしなくなったこと」18.6%と唯一、2割を切っている項目である。これは前回調査においても最も少なかった項目であった。「孤独に耐えられること」25.1%、「いつまでもくよくよ悩まなくなったこと」26.2%と合わせ、心理的な面で成長したと評価する者は少ない。また、「家族との関係が改善されたこと」24.9%、「身体が健康になったこと」25.4%、「学力が身に付いていること」27.1%も相対的に評価の低い項目となっている。

前回調査との比較では、「身のまわりのことが自分でできること」と「生活のリズムがつけられ

ること」以外に比率が増加した項目はない。両項目も微増にとどまっており、前回調査とほぼ同様の結果と考えられる。

一方、減少した項目で、特に前回調査との差が大きくなっている項目としては、「自分に自信が持てること」が11.3%減、「自分で働いて収入を得ようとする事」が8.7%減、「自分の気持ちをはっきり表現できること」が7.3%減、「かっとなしたり、いらいらしたりしなくなったこと」7.1%減などとなっている。このうち、「自分で働いて収入を得ようとする事」の減少については、就学者の増加が影響していると考えられる。

問 28 問 27 で 1～15 の回答を選んだ方にお聞きします。どのような人のアドバイスやはげましが支えになりましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 28	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2
1. 母親	1475	1449	26	829	56.2%	57.2%
2. 父親	1475	1449	26	417	28.3%	28.8%
3. きょうだい	1475	1449	26	333	22.6%	23.0%
4. 祖父母	1475	1449	26	183	12.4%	12.6%
5. 先輩・友人	1475	1449	26	646	43.8%	44.6%
6. 上司・同僚	1475	1449	26	182	12.3%	12.6%
7. 妻・夫	1475	1449	26	36	2.4%	2.5%
8. 子ども	1475	1449	26	20	1.4%	1.4%
9. その他	1475	1449	26	333	22.6%	23.0%
10. 特にない	1475	1449	26	273	18.5%	18.8%

問 27 において、中学校卒業時と比べて成長したことがあったと回答した者に対して、誰からのアドバイスが支えとなったかと尋ねたものである。

「母親」が56.2%と最も高く、次いで「先輩・友人」43.8%となっている。

5 不登校による不利益・不当な扱い

問 29 小中学生の頃に不登校だったために、そのことを問題にされて中学校卒業以降、不利益や不当なあつかいをうけたことがありますか。ひとつ選んで○をつけてください。

問 29	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. おおいにあった	105	6.5%	6.7%	6.1%
2. 少しはあった	394	24.6%	25.2%	26.6%
3. まったくなかった	1066	66.5%	68.1%	65.8%
有効回答数	1565	97.6%	100.0%	
<NA>	39	2.4%		
総数	1604	100.0%		

不登校であったために、調査対象者がこれまでの生活の中で不利益や不当な扱いを受けたかどうかに関する調査を行ったところ、「おおいにあった」6.5%、「少しはあった」24.6%であり、

両者を合わせると不利益を被ったとする者は31.1%であった。反面、66.5%は「まったくなかった」と答えており、不登校を経験した者の約2/3は、不登校であったことを理由に中学卒業後からこれまでの生活の中で不利益や不当な扱いを受けたことはないと答えている。

また、前回調査と比較すると、各項目ともほぼ同様の結果となっている。これまで、前回調査に比べ、学校や社会における不登校への対応の仕組みが整備されてきたと述べてきたが、その点も踏まえてこの結果を考える必要がある。

6 不登校による苦労や不安

問30においては、四つの項目について、不登校であったために、調査対象者がこれまでの生活の中で苦労や不安があったかに関する調査を行っている。

問30 小中学生の頃に不登校だったために、中学校卒業後今までに、次のようなことがありましたか。a.～d.のそれぞれのことであてはまるものをひとつずつ選んで○をつけてください。

a. 受験（資格試験、就職試験を含む）や仕事などで苦労した

問30a	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. おおいにあった	328	20.4%	21.3%	19.5%
2. 少しあった	476	29.7%	30.9%	38.3%
3. まったくなかった	738	46.0%	47.9%	40.2%
有効回答数	1542	96.1%	100.0%	
<NA>	62	3.9%		
総数	1604	100.0%		

（注）「H5調査」においては、「学力や知識が足りず、受験（資格試験、就職試験を含む）や仕事などで苦労したことがありますか」と問うている。

b. 体力が低下したり不足したりして苦労した

問30b	回答数	比率1	比率2	H5調査
1. おおいにあった	436	27.2%	28.1%	15.7%
2. 少しあった	527	32.9%	33.9%	32.4%
3. まったくなかった	590	36.8%	38.0%	50.3%
有効回答数	1553	96.8%	100.0%	
<NA>	51	3.2%		
総数	1604	100.0%		

c. 生活リズムが乱れ苦労した

問 30c	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. おおいにあった	525	32.7%	33.8%	24.1%
2. 少しあった	528	32.9%	34.0%	38.7%
3. まったくなかった	501	31.2%	32.2%	35.9%
有効回答数	1554	96.9%	100.0%	
<NA>	50	3.1%		
総数	1604	100.0%		

d. 他人との関わりに不安を感じるがあった

問 30d	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. おおいにあった	684	42.6%	43.7%	19.9%
2. 少しあった	496	30.9%	31.7%	33.5%
3. まったくなかった	384	23.9%	24.6%	45.4%
有効回答数	1564	97.5%	100.0%	
<NA>	40	2.5%		
総数	1604	100.0%		

(注) 「H5 調査」においては、「現在の他人との関わりに不安を感じるがありますか」と問うている。

全ての項目において、「まったくなかった」と回答している者が50%未満であり、調査対象者の半数以上の者が何らかの形で苦労したり、不安を持ったりした経験を持っている。

特に、「d. 他人との関わりに不安を感じるがあった」は、「おおいにあった」が42.6%を占め、「少しはあった」を含めると73.5%が対人関係について不安を感じるがあった経験を持っている。しかも、前回調査と比べると、「おおいにあった」は22.7%増加し、「まったくなかった」は21.5%減少している。

その他の項目をみると、「a. 受験（資格試験、就職試験を含む）や仕事などで苦労した」は、「おおいにあった」と「少しはあった」とを合わせて50.1%である。前回調査は57.8%で、四つの項目の中で唯一前回調査より比率が減少した項目である。

また、「c. 生活リズムが乱れ苦労した」経験については、「おおいにあった」と「少しはあった」を合わせて65.6%の者が苦労した経験を持っており、前回調査では62.8%から微増となっている。

最後に、「b. 体力が低下したり不足したりして苦労した」は、「おおいにあった」と「少しはあった」を合わせて60.1%であり、前回調査の48.1%に比べ、12.0%増加している。

7 不登校によるマイナスの影響

問 31 現在のあなたの状態は、かつて不登校であったことがマイナスに影響していると感じていますか。最も近いものひとつ選んで○をつけてください。

問 31	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 感じている	377	23.5%	23.9%	24.0%
2. 感じていない	647	40.3%	41.1%	39.3%
3. どちらともいえない	552	34.4%	35.0%	35.3%
有効回答数	1576	98.3%	100.0%	
<NA>	28	1.7%		
総数	1604	100.0%		

上記は、現在の自分の状況に照らして、不登校であったことが現在の自分にマイナスに影響していると感じているかどうかを調査した結果である。

不登校であったことをマイナスと感じている者は 23.5%で、マイナスとは感じていない者 40.3%よりも少ない。また、その「どちらでもない」と回答した者は 34.4%であった。

この傾向は、前回調査とほぼ同様である。

8 将来やってみたい仕事の有無

問 32 将来つきたい仕事ややってみたい仕事がありますか。ひとつ選んで○をつけてください。

問 32	度数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. ある	1049	65.4%	66.5%	74.6%
2. ない	405	25.2%	25.7%	24.0%
3. すでにやりたい仕事についている	124	7.7%	7.9%	*
有効回答	1578	98.4%	100.0%	
<NA>	26	1.6%		
総数	1604	100.0%		

(注) 「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

将来就きたい仕事ややってみたい仕事を尋ねたところ、「ある」と回答した者が 65.4%、「すでにやりたい仕事についている」7.7%で、合わせると 73.1%となる。前回調査で「ある」と回答した者は 74.6%であり、ほぼ同様の結果となっている。

9 自分の将来の夢や希望

問 33 自分の将来について夢や希望がありますか。ひとつ選んで○をつけてください。

問 33	度数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. ある	697	43.5%	44.1%	47.5%
2. ぼんやりとある	552	34.4%	34.9%	33.6%
3. ない	333	20.8%	21.0%	17.9%
有効回答	1582	98.6%	100.0%	
<NA>	22	1.4%		
総数	1604	100.0%		

(注) 「ぼんやりとある」は、「H5 調査」においては「ばくぜんとある」として調査している。

自分の将来の夢や希望があるかどうかについて「ある」と回答した者が 43.5%、「ぼんやりとある」が 34.4%であり、合計すると 77.9%の者が夢や希望を持っていると答えている。一方、「ない」と回答した者は 20.8%であり、前回調査の 17.9%に比べ、微増となっている。

10 今後の支援に対するニーズ

問 34 これからの生活を設計していくにあたって、次のような相談や手助けなどがあればいいの
にと思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問 34	総回答数	有効回答数	NA	回答数	比率 1	比率 2	H5 調査
1. 進学するための相談や手助け	1604	1559	45	194	12.1%	12.4%	15.7%
2. 仕事につくための相談や手助け	1604	1559	45	642	40.0%	41.2%	
3. 学校の勉強についての相談や手助け	1604	1559	45	201	12.5%	12.9%	16.5%
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け	1604	1559	45	671	41.8%	43.0%	37.7%
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりする方法についての指導	1604	1559	45	418	26.1%	26.8%	*
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所	1604	1559	45	416	25.9%	26.7%	25.6%
7. 心の悩みについての相談	1604	1559	45	456	28.4%	29.2%	24.9%
8. 規則正しい生活習慣についての指導	1604	1559	45	153	9.5%	9.8%	5.4%
9. その他	1604	1559	45	46	2.9%	3.0%	2.3%
10. とくにない	1604	1559	45	493	30.7%	31.6%	38.8%

(注) 「H5 調査」の「*」は、前回調査では選択肢がなかったことを示す。

※作表の関係上、問 34 の設問・選択肢を以下のとおり略称する。

問 34 では、これからの生活を設計していくに当たっての支援に対するニーズを調査している。

問 34 これからの生活を設計していくにあたって、次のような相談や手助けなどがあればいいのにと考えたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

設問の略称【（問 34）今後の支援に対するニーズ】

選択肢の略称

1. 進学するための相談や手助け → 「1. 進学」
2. 仕事につくための相談や手助け → 「2. 仕事」
3. 学校の勉強についていくための相談や手助け → 「3. 勉強」
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け
→ 「4. 技能」
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりする方法についての指導
→ 「5. 表現」
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所 → 「6. 居場所」
7. 心の悩みについての相談 → 「7. 悩み」
- 8 規則正しい生活習慣についての指導 → 「8. 生活」
9. その他 → 「9. その他」
10. とくにない → 「10. なし」

なお、前回調査の「進路に関する相談を受けられるところ」は、本調査では「進学するための相談や手助け」と「仕事につくための相談や手助け」と分けて調査するとともに、新たに「自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導」の項目を追加して調査を行っている。

まず、最もニーズのある項目としては、「将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け」41.8%で、これは前回調査 37.7%や問 17 の「中学校卒業後のニーズ」の同項目 32.3%よりも高い。次いで「仕事につくための相談や手助け」が 40.0%であり、これも問 17 の「中学校卒業後のニーズ」の同項目 27.0%よりも増えている。中学卒業後5年を経過した時点では、就業に関する支援のニーズが高いことが分かる。

これら2項目の次に高い項目は、「心の悩みについての相談」28.4%であり、問 17 の「中学校卒業後のニーズ」の同項目 27.7%とほぼ同数である。同様に、問 17 の「中学校卒業後のニーズ」と比較して、「自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりする方法についての指導」は 26.1%（本問）と 27.2%（問 17）、「友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所」25.9%（本問）と 24.4%（問 17）であり、心理面や対人関係に関する支援のニーズは、中学校卒業後のニーズとほとんど変化していないことが分かる。心理面や対人関係に関する支援を必要とする者は、今後も継続して支援を必要としているとも考えられる。

また、「とくにない」と回答した者は 30.7%で、前回調査 38.8%より 8.1%減少している。